

論
壇

『新たな医療分野の研究開発体制について』

内閣官房 健康・医療戦略室
参事官

岡 村 直 子 氏

1 はじめに

医療分野の研究開発に関する政府の取組は、今まさに大きな転換期を迎えております。関連の法案である「健康・医療戦略推進法案」及び「独立行政法人日本医療研究開発機構法案」が本年2月12日に国会に提出され、衆議院の議論を経て、筆者が本原稿を寄稿させていただいている丁度今、参議院における審議が進んでいるという現状にあります。このようなタイミングで貴協会誌の論壇の頁をいただいたことをまず、御礼申し上げます。

今回の政府の取組を一言でいうならば、国の医療分野の研究開発について、より総合的かつ戦略的に実施し、我が国のある研究開発の成果を医療現場や産業創出になお一層活かしていくための取組ということとなります。

以下、順にご説明してまいります。

2 我が国の医療分野を巡る現状認識

平均寿命が男性79.6歳、女性86.4歳(平成22年)と、世界に冠たる長寿国である(注1)ことは、我が国が世界に誇れることの1つとして挙げられます。しかし、同時に、このことは、我が国が世界に先駆けて超高齢化社会を迎えていくことにはかならず、総人口に占める65歳以上の高齢者の占める割合が、平成23年の23.3%から上昇を続け、平成72年には39.9%に達すると予想される現状にあります。また、

75歳以上の高齢者のうち、慢性疾患による受療、疾病の罹患率、要介護等の高い方は増加しており、平均寿命と健康寿命の差を縮小することが課題となっております。

次に医薬品・医療機器産業の現状をみてみましょう。世界の医療市場は急速な成長を続け、平成22年の市場規模は約520兆円に達しています。また、これらの関連産業は景気動向の影響を受けにくいとともに付加価値の高い製品を製造する産業であることなどから、健康寿命の延伸とともに、経済成長にも寄与しうる産業として発展が期待されています。しかしながら、平成23年には、医薬品・医療機器の貿易赤字は約2兆円に達する拡大傾向となっており、我が国の中関連産業の国際競争力の強化は大きな課題です。(注2)。

3 問題の所在

～基礎研究の成果を実用的診断・治療技術へ～

表1は、論文のうちでも被引用度が上位1%に入るものの(以下「上位1%論文」と記載。)についての我が国からの論文数、世界におけるシェア及び順位に関し、1999年から2001年と2009年から2011年の10年間の変化について分析したものです。全分野を通じても、我が国からの上位1%論文数自体は増加傾向を維持しているものの、近年、中国や韓国等においても基礎研究への取組が強化され、日米欧を急速に追い上げてきているなどにより、論文数

【表 1】

基礎生命科学と臨床医学分野の注目度が非常に高い論文(Top1%補正論文数)における世界の上位15ヶ国・地域

全体			1999年－2001年(平均)			基礎生命科学			1999年－2001年(平均)			臨床医学			1999年－2001年(平均)				
			Top1%補正論文数			Top1%補正論文数			Top1%補正論文数			Top1%補正論文数			Top1%補正論文数				
国名	論文数	シェア	世界ランク	国名	論文数	シェア	世界ランク	国名	論文数	シェア	世界ランク	国名	論文数	シェア	世界ランク	国名	論文数	シェア	
米国	4464	58.7	1	米国	1175	59.6	1	米国	1293	65.1	1	米国	1293	65.1	1	米国	1293	65.1	1
英国	956	12.6	2	英國	280	14.2	2	英國	288	14.5	2	英國	288	14.5	2	英國	288	14.5	2
ドイツ	768	10.1	3	ドイツ	184	9.3	3	ドイツ	168	8.5	3	カナダ	159	8.0	4	フランス	134	6.7	5
フランス	512	6.7	4	日本	123	6.2	4	フランス	121	6.1	5	オランダ	113	5.7	6	オランダ	113	5.7	6
日本	484	6.4	5	フランス	105	5.3	6	カナダ	105	5.3	6	イタリア	112	5.6	7	イタリア	112	5.6	7
カナダ	429	5.6	6	オランダ	68	3.4	7	オランダ	65	3.3	8	日本	92	4.6	8	スイス	80	4.0	9
イタリア	305	4.0	7	オーストリア	65	3.3	8	スイス	61	3.1	9	スイス	80	4.0	9	オーストリア	68	3.4	10
オランダ	302	4.0	8	オーストリア	51	2.6	10	イタリア	50	2.5	11	オーストリア	65	3.3	11	ベルギー	55	2.8	12
スイス	286	3.8	9	スイス	41	2.1	12	スペイン	32	1.6	13	スペイン	47	2.4	13	デンマーク	42	2.1	14
オーストラリア	239	3.1	10	デンマーク	31	1.6	14	イスラエル	27	1.4	15	デンマーク	40	2.0	15	デンマーク	40	2.0	15
スウェーデン	191	2.5	11	ベルギー															
スペイン	174	2.3	12																
中国	145	1.9	13																
デンマーク	124	1.6	14																
ベルギー	121	1.6	15																

全体			2009年－2011年(平均)			基礎生命科学			2009年－2011年(平均)			臨床医学			2009年－2011年(平均)				
			Top1%補正論文数			Top1%補正論文数			Top1%補正論文数			Top1%補正論文数			Top1%補正論文数				
国名	論文数	シェア	世界ランク	国名	論文数	シェア	世界ランク	国名	論文数	シェア	世界ランク	国名	論文数	シェア	世界ランク	国名	論文数	シェア	
米国	5705	49.7	1	米国	1437	51.9	1	米国	1810	61.2	1	米国	1810	61.2	1	米国	1810	61.2	1
英国	1715	15.0	2	英國	454	16.4	2	英國	584	19.7	2	ドイツ	424	14.4	3	カナダ	345	11.6	4
ドイツ	1532	13.4	3	ドイツ	374	13.5	3	フランス	229	8.3	4	フランス	332	11.2	5	イタリア	313	10.6	6
中国	1148	10.0	4	フランス	198	7.1	5	カナダ	176	6.4	6	イタリア	281	9.5	7	オランダ	200	6.8	8
フランス	1021	8.9	5	オーストラリア	153	5.5	8	オランダ	151	5.5	9	オーストラリア	178	6.0	9	スイス	135	4.9	10
カナダ	884	7.7	6	イタリア	151	5.5	9	スイス	135	4.9	10	スペイン	173	5.9	10	スペイン	146	4.9	11
イタリア	767	6.7	7	スペイン	135	4.9	11	中国	129	4.7	12	スウェーデン	134	4.5	12	ベルギー	115	3.9	13
日本	671	5.8	8	ベルギー	87	3.1	13	ベルギー	80	2.9	14	日本	113	3.8	14	デンマーク	101	3.4	15
オランダ	668	5.8	9	スウェーデン	80	2.9	14	デンマーク	78	2.8	15								
オーストラリア	628	5.5	10																
スペイン	612	5.3	11																
スイス	592	5.2	12																
スウェーデン	349	3.0	13																
ベルギー	348	3.0	14																
韓国	311	2.7	15																

出典: 科学技術政策研究所 調査資料-218 科学研究のベンチマーク2012
<http://data.nistep.go.jp/dspace/bitstream/11035/1196/5/NISTEP-RM218-FullJ.pdf>

シェアおよび世界ランクは低下傾向となっている現状は否めません。分野別にみると、基礎生命科学もほぼ同傾向にあるところですが、臨床医学分野については、世界シェアが低く、更に過去10年で大きく下降している現状にあります。

本年4月4日に、衆議院内閣委員会において、新たな医療分野の研究開発体制の構築に関する前述の2法案の審議の一環として、参考人質疑が実施されました。本委員会において参考人として出席された竹中登一氏（ヒューマンサイエンス振興財団会長、前アステラス製薬株式会社代表取締役会長）は、同委員会において、「日本はアメリカに次いで、スイス、イギリスとともに世界第2位の新薬創出大国となっており、ドイツに100年おくれてスタートしたが50年で追いつき追い越した」こと、また、その理由について、「日本のアカデミアに、創薬に必要で、かつ応用のできる高度な科学技術力が醸成されていた」ことを指摘されています。同じ委員会において、末松誠氏（慶應義塾大学医学部長）からも、「日本の基礎研究は非常に強く、薬の大もとになる開発力はあるが、それを“育ての親”として世界に広げていく仕組みが十分でない」とのご指摘を、更に山中伸弥氏（京都大学iPS細胞研究所所長）からも、インパクトファクターの高い基礎研究雑誌（Nature Medicine, Cell 及び Journal of Experimental Medicine）と臨床研究雑誌（New England Journal

of Medicine, Lancet 及び Journal of the American Medical Association）の比較データを引用しつつ、「臨床医学では2008年から2011年には、世界25位とその地位が低下していること、基礎は優秀だがそれを臨床応用する点でうまくいっていない」との異口同音の指摘がなされています。（注3）

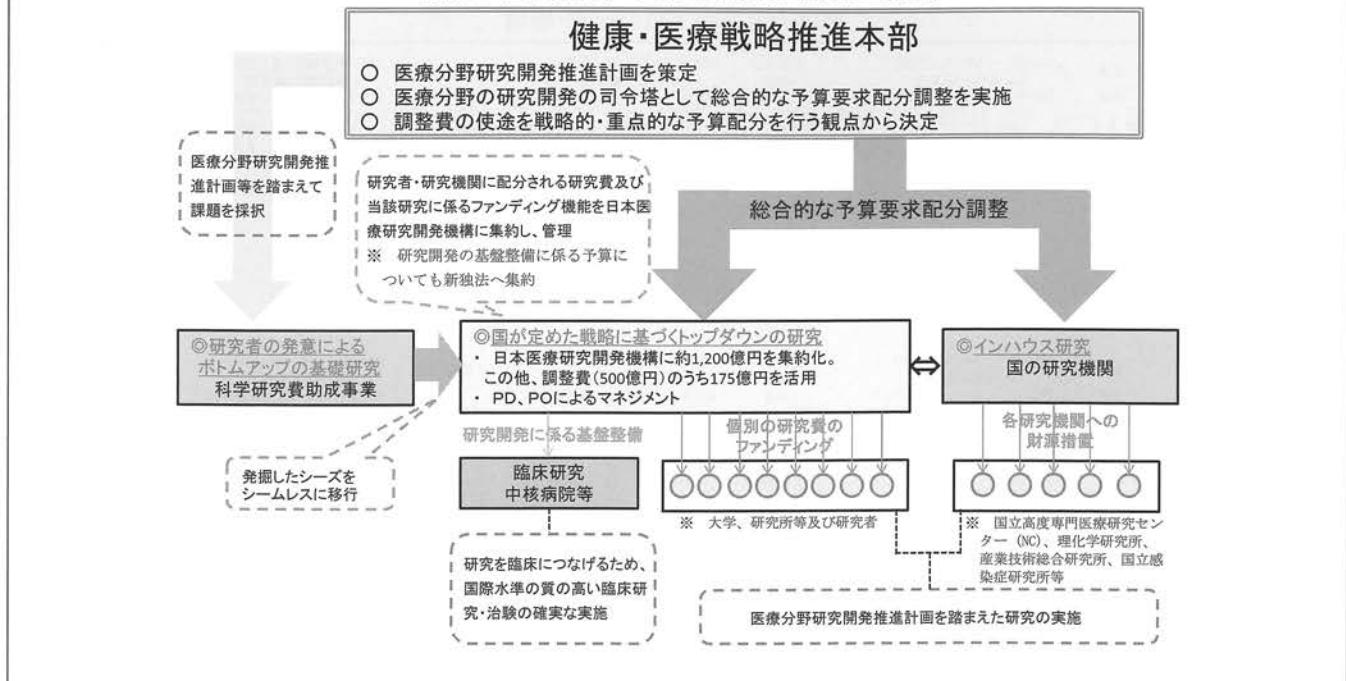
4 医療分野の研究開発の新たな体制構築に求められる基本的な考え方

前述2.3. のような背景を踏まえ、平成25年6月14日に閣議決定された日本再興戦略においては、「国民の「健康寿命の延伸」」が戦略市場創造プランの1つとして掲げられ、2030年に向け、

- ①効果的な予防サービスや健康管理の充実により、健やかに生活し、老いることができる社会
 - ②医療関連産業の活性化により、必要な世界最先端の医療等が受けられる社会
 - ③病気やけがをしても、良質な医療・介護へのアクセスにより、早く社会に復帰できる社会の実現を目指すこととされました。
- その取組の一環として、医療分野の研究開発については、
- 司令塔の本部として、内閣に、推進本部を設置すること。
 - 一元的な研究管理の実務を担う独立行政法人を創

【図1】

新たな医療分野の研究開発体制の全体像



設すること。及び

- 研究を臨床につなげるため、国際水準の質の高い臨床研究・治験が確実に実施される仕組みを構築する。
- 等の省庁を超えた取り組みを実現する仕組みの構築が決定されたものです。

5 新たな体制構築の具体的な内容

図1は、新たな医療分野の研究開発体制の全体像を示したもので

この体制の鍵となるのは、内閣総理大臣を本部長とし全閣僚からなる健康・医療戦略推進本部（以後「推進本部」と表記）と、新たに設立する独立行政法人、日本医療研究開発機構（以後「新独法」と表記）です。

具体的には、図2に示しますように、推進本部は「健康・医療戦略」及び「医療分野研究開発推進計画」を決定し、これに基づいた戦略的、総合的な予算配分を行います。「健康・医療戦略」とは、「総合的かつ長期的に講すべき健康・医療に関する先端的な研究開発及び新産業創出に関する施策の大綱」であり、その他、これらの施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項を定めることとしており、閣議決定されることとなっています。一方、「医療分野研究開発計画」は、政府が講すべき医療分野の研究

開発並びにその環境整備及び成果の普及に関する施策の集中的かつ計画的な推進を図るため、「健康・医療戦略」に即して、推進本部により決定される計画です。

また、新独法は、「医療分野研究開発推進計画」に基づき、医療分野の研究開発予算等を集約し、研究課題の公募・採択、研究費の配分及び研究の進捗に応じた評価といった、研究管理の実務を行うこととなります。この新たな仕組みの成否は、研究マネジメントが如何に適切に実施されるかにかかっておきます。このため、新独法においては、新たなシーズを見出す目利き機能や臨床研究への橋渡し、研究者を支援・指導する牽引力等を備えたプログラムディレクターやプログラムオフィサーを活用してまいります。

こういった取組により、図3にありますように、研究者が基礎段階から実用化まで切れ目なく、研究開発の進捗に応じた最適の研究費等を確保できること、研究開発に係る設備・機器整備での重複投資を避け、国全体を俯瞰した最適な配置が可能となり、研究の効率化が図られること及び、研究者にとって、情報提供や申請の窓口・手続きが一本化され、研究以外の事務負担が減り、これまで以上に研究開発に専念できるといった効果が期待できるものと考えております。

【図 2】

医療分野の研究開発等における司令塔機能について

法の目的【推進法 1 条】

医療分野の研究開発及び健康長寿産業の創出・活性化等について、健康・医療戦略を定め、それを推進する健康・医療戦略推進本部を設置する等により健康長寿社会の形成に資することを目的とする。

基本理念【推進法 2 条】

基礎から実用化までの一貫した研究開発の推進とその成果の実用化により世界最高水準の医療の提供に資するとともに、健康長寿産業の創出・活性化により我が国経済の成長に資するものとなることを旨とする。

【推進法 17 条】 基本理念にのっとり、基本的施策を踏まえて健康・医療戦略を定める

健康・医療戦略（閣議決定）

- ・政府が講すべき医療分野の研究開発及び健康長寿産業の創出・活性化等に関する施策の大綱
- ・上記施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

基本的施策（推進法 10～16 条）

- 基礎から実用化までの一貫した研究開発の推進
- 臨床研究等の研究環境の整備
- 研究開発の公正・適正な実施
- 成果の実用化のための審査体制の整備等
- 新産業の創出・海外展開の促進
- 教育の振興 ○人材の確保

【推進法 18 条】 健康・医療戦略に即して医療分野研究開発推進計画を定める

医療分野研究開発推進計画（本部決定）

- ・政府が講すべき医療分野の研究開発並びにその環境の整備及び成果の普及に関する施策（医療分野研究開発等施策）についての基本方針
- ・集中的かつ計画的に講すべき医療分野研究開発等施策
- ・その他医療分野研究開発等施策を集中的かつ計画的に推進するために必要な事項

【推進法 19 条】 医療分野研究開発推進計画は日本医療研究開発機構が医療分野の研究開発等の実施・助成において中核的な役割を担うよう作成する

独立行政法人日本医療研究開発機構の業務

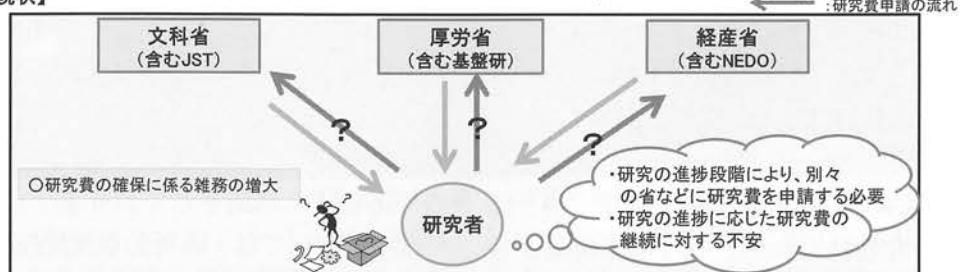
- ① 医療分野の研究開発及び環境整備（委託事業）
- ② ①の業務に係る成果の普及・活用の促進
- ③ 医療分野の研究開発及び環境整備に対する助成（補助）
- ④ ①～③の業務に附帯する業務

●トップダウン型の実用化を視野に入れた研究開発を基礎から実用化まで一貫した研究管理

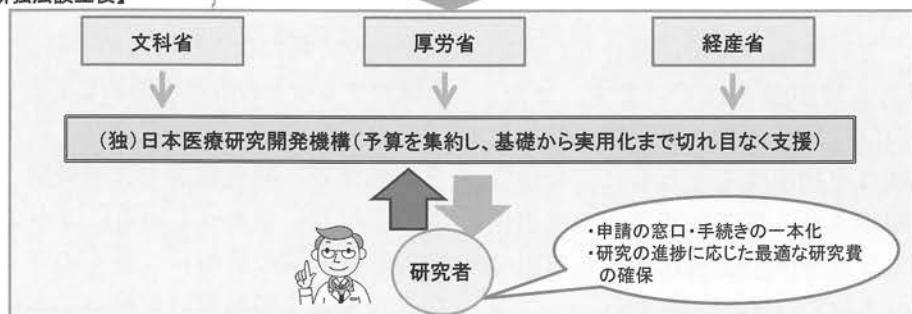
【図 3】

(独)日本医療研究開発機構の設立による効果

【現状】



【新独法設立後】



6

平成 26 年度の医療分野の研究開発関連予算のポイント

新たな医療分野の研究開発体制の構築に向けた法律の整備等と並行して、国としての本件に関する総合的な推進が昨年来すでに開始されております。具体的には、平成 25 年 8 月 2 日に、推進本部の設置

が閣議決定されました。同年 8 月 8 日の第 1 回推進本部会合において平成 26 年度の医療分野の研究開発関連予算の要求の基本方針が決定され、各省は、これに基づいた予算の要求を行いました。また、医療分野の研究開発に関する専門家で構成される調査会が同年 10 月に発足し、本分野の研究開発の推進に関する基本的な認識や、今後の取り組むべき方向

【図4】 平成26年度 医療分野の研究開発関連予算のポイント

	26年度決定	25年度当初	対前年度	
			増▲減額	増▲減率
新独法対象経費	1,215億円(文570、厚478、經169)	1,012億円(文447、厚402、經163)	203億円	20.08%
インハウス研究 機関経費	740億円(文200、厚455、經85)	713億円(文155、厚476、經81)	27億円	3.74%

※ 上記経費に加え、科学技術イノベーション創造推進費(500億円)のうち35%(175億円)を医療分野の研究開発関連の調整費として充当。
※ 精査により計数に異動が生じる場合がある。

主な取組 健康・医療戦略推進本部の下で各省が連携し、医療分野の研究開発を政府一体で推進

医薬品・医療機器開発への取組	臨床研究・治験への取組
・医薬品創出の基盤強化 254億円<新独法198億円、インハウス55億円>	・革新的医療技術創出拠点プロジェクト 121億円<新独法>
・オールジャパンでの医療機器開発 112億円<新独法>(一部再掲)	・
世界最先端の医療の実現に向けた取組	疾病領域ごとの取組
・再生医療の実現化ハイウェイ構想 151億円<新独法>(一部再掲)	・ジャパン・キャンサーサービス・プロジェクト 172億円<新独法>(一部再掲)
・疾病克服に向けたゲノム医療実現化プロジェクト 70億円<新独法55億円、インハウス16億円>	・脳とこころの健康大国実現プロジェクト 71億円<新独法>(一部再掲)
	・新興・再興感染症制御プロジェクト 53億円<新独法36億円、インハウス17億円>
	・難病克服プロジェクト 93億円<新独法>(一部再掲)

(参考)25補正予算における主な取組

医療分野の研究開発の推進	健康・医療戦略分野(創薬・医療機器・海外展開等)による投資促進	医療の国際展開支援
○【文科省】科学技術イノベーションの推進(重点課題の研究開発) の一部 65億円<新独法6億円、インハウス4億円> ・オーダーメード医療の実現及び脳機能ネットワークの全容解明に向けた研究 を加速するための機器整備等	○【経産省】健康・医療戦略ファンド群(仮称) 産業投資 200億円、一般会計10億円 ・事業規模1,000億円 ・産業革新機構、中小企業基盤整備機構の財務 基盤を強化し投資を加速	○【経産省】医療の国際展開 支援 20億円 ・日本式医療の国際展開を支 援する機関等と連携して医療 技術の現地実践等を行う

性についての総合的な考え方方が、本年1月22日に取り纏められております。

本報告書では、現代の医療分野の研究開発においては、基礎研究の成果を臨床の現場に応用するだけではなく、「基礎研究」→「人間の疾患の理解」→「治療・診断用の薬剤や医療機器を開発（臨床試験及び治験）」→「臨床現場での実際の広範な使用」→「臨床疫学研究による有効性の検証」→「臨床現場からの新たな課題の抽出」→「基礎研究への還元」といった基礎研究と臨床現場の間の循環に沿って行われることが重要であり、この循環の実現に適合した体制を構築する必要がある旨強調されています。また、我が国の医療分野の研究開発の抱える課題の解決に向けた取り組みの観点を抽出するとともに、今後設立される新独法に期待される機能や基礎から実用化へ一貫して繋ぐプロジェクトの実施にかかる取組等についての方向が示されています（注4）。

この様な議論の方向性を踏まえつつ編成された平成26年度の医療分野の研究開発関連予算については図4に示す通りです。中でも特筆すべきは、平成26年度から、健康・医療戦略推進本部の下で政府一体で推進する省庁連携プロジェクトが開始されていることです。9つの省庁連携プロジェクトは、それぞれを構成する全ての事業の共同の推進委員会を発足させるなど、互いの事業の連携・協力を進める取組が行われております。

7 おわりに

医薬品・医療機器の開発、最先端の医療技術の実現や、我が国の優れた科学技術を医療現場に繋げる取り組みは、一朝一夕に実現するものではなく、様々な隘路を1つ1つ解決していくことが求められるものであろうと認識しております。

政府においては、革新的な医療技術の実用化を加速するため、既述のように、国による研究開発について、従来の省庁ごとの取組を抜本的に見直し、新たな体制の整備や、新たな連携のための研究開発プロジェクトを開始するなどの取組を開始しております。

しかしながら、その成否は、新たな体制を活用下さる研究者、研究機関や医療機関、関係企業の方々等のご尽力にかかっているにほかなりません。是非、この新たな国との取組に、多くの方々のご協力をいただきたく、そのお願いを持って本稿を締めさせていただきたいと思います。

注1 出典：厚生労働省平成22年都道府県別生命表の概要、平成4年度版高齢社会白書

注2 出典：WHOデータ等をもとに内閣官房にて算出

注3 出典：http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_kaigiroku.nsf/html/kaigiroku/000218620140404010.htm

注4 出典：医療分野の研究開発に関する総合戦略（報告書）

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/tyousakai/pdf/houkoku.pdf>

施設紹介

医科大学が果たす役割・使命は、本格的超高齢化社会の幕開け、医療技術の進歩等に伴い、社会的重要性は一層高まりつつある。なかでも、高度医療機関かつ医育機関として、充実した機能を備えた大学施設等が、新時代を担うものとして強く望まれている。本誌では、新・増築された協会加盟各大学施設を順次紹介している。

金沢医科大学 氷見市民病院教育研修棟竣工



教育研修棟外観 1（写真右端）

金沢医科大学は平成 20 年 4 月に氷見市民病院の事業指定管理者となり、以降、病院の管理・運営を担ってきましたが、このたび病院に隣接して教育研修棟が完成しました。平成 20 年 4 月当初 28 名であった医師数は現在では 46 名に増加し、将来的な医師増員への対応から研究室の増設が急務となりました。また、従来の初期臨床研修医や看護実習生、リハビリ実習生及び救命救急士実習等に加え、平成 26 年 4 月から金沢医科大学医学部第 5 学年生の臨床実習が 1 年を通じて実施されることとなり、大学の附属病院かつ地域の中核病院として地域医療を担う人材育成と教育研修の施設整備が必要となり、教育研

修棟を平成 25 年 4 月に着工し、同年 11 月末に完成了。

教育研修棟は、病院西側に隣接して増築され、鉄骨 3 階建て延床面積は約 1,690m²。1 階はピロティで救急車の搬送患者の受入れ施設や駐車場、2 階は合同カンファレンス室、職員図書室、医局カンファレンス室、医療安全対策部、研修生仮眠室、氷見市医師会事務局、3 階は教授・准教授等の研究室、臨床研修室、電子カルテ室等が設置されています。

竣工式は、平成 25 年 12 月 6 日に病院 6 階多目的ホールにおいて行われました。



教育研修棟外観 2



2 階合同カンファレンス室

東京医科大学

第一看護学科棟竣工



第一看護学科棟 外観

東京医科大学では、昨年開設した医学部看護学科の新校舎として、第一看護学科棟が平成26年2月15日に無事竣工しました。平成25年2月に着工してから約1年を要しましたが、思考力と実践力の鍛錬に重点を置いた、新しい看護学教育を実現するのに充実した施設が完成しました。

この第一看護学科棟は、建築面積917.22m²、延床面積3,977.41m²、地下1階・地上5階・塔屋1階鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造で、基礎新館と第一校舎間の左手奥に正面玄関があります。1階は講義室、事務室、学科長室などがあります。講義室の壁は全面ガラス張りとなっており、明るくオープンなエントランス空間が演出されています。2階はグループワークなど参加・体験型学習を想定し、全ての机を可動式とした教室や情報処理室、会議室が設けられています。3階には新校舎最大の特徴で、国内の看護学科としても有数のシミュレーションセンターが設けられています。ベッド20台が配置された実習室と実習準備室、4つのシミュレーションルーム、ディブリーフィングルームからなります。各シミュレーションルームには、高性能人体シミュレータ、モニターが設置され、ディブリーフィングルームでは各シミュレーションルームから送信された画像と音声を再現、臨場感のあるシミュレーション学習を行うことができます。4階、5階フロアには研究室とゼ

ミ室が設けられています。

第一看護学科棟竣工により、本学の新しい取り組みがまた一歩、実現へと進み出します。



全面ガラス張りで明るいオープンエントランスと講義室



高性能人体シミュレータとモニターが設置されたディブリーフィングルーム

日本医科大学

医学部合同教育施設（日本獣医生命科学大学 E 棟）竣工



合同教育施設（E 棟）外観

日本医科大学は、平成 26 年 3 月、武藏境地区（武藏野市）に同一法人の日本獣医生命科学大学との合同教育施設となる E 棟を竣工いたしました。日本医科大学医学部 1 学年の基礎科学課程の学舎は、本年 3 月 31 日に新丸子校舎（川崎市）が役目を終え 40 余年の歴史を閉じ、4 月 1 日からは、武藏境校舎で日本獣医生命科学大学との共用を開始し、新たな歴史の一歩を踏み出しました。

本施設は、地下 1 階、地上 7 階建ての鉄筋コンクリート造（一部鉄筋骨）の基礎免震構造、延べ床面積は 16,787.47m²です。大教室、実習室、マルチメディア教室、学生相談室などを配置し、医師としての基盤を育成するに相応しい施設となっています。主に 2・3 階が日本医科大学基礎科学課程フロアとなり、地下 1 階は日本獣医生命科学大学との共用フロアとして活用します。1 階から 7 階までの各階に南側に面して大きなガラス張りのラウンジを吹き抜け構造で設け、ラウンジ脇を通る階段からは 1 階から 7 階までが見通せるようなつくりになっています。外からの光や緑を取り込んだ明るく開放的な空間で、両大学の学生・教職員が垣根を取り払い、自然と交流を図ることができる、憩いの場となる環境を整えました。また災害に強い建物であり、不測事態にもライフラインが確保され、両大学の学生が安心して教育・研究ができる施設となっています。

これからも、新しい地となる武藏境校舎で、地域や社会に貢献できるよう一層努力してまいります。



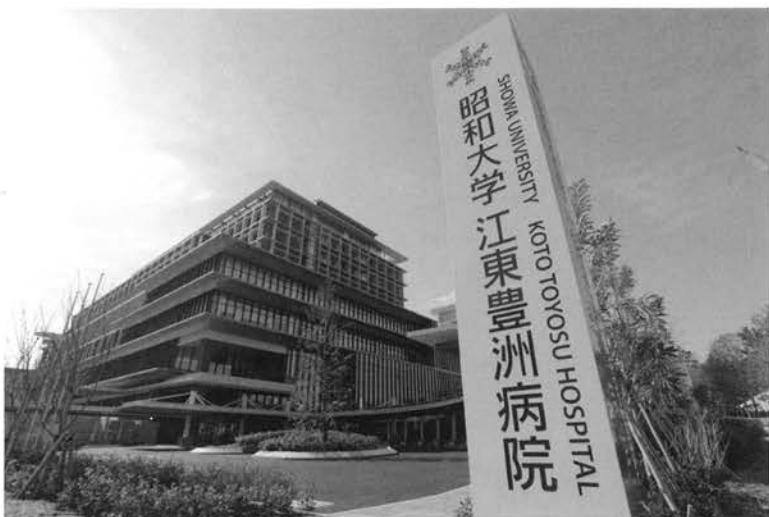
ラウンジ



大教室

昭和大学

女性とこどもにやさしい病院 江東豊洲病院開院



病院外観 1



病院外観 2



こどもセンター プレイルーム



NICU・GCU

昭和大学江東豊洲病院は、昭和大学附属豊洲病院の移転・拡張により3月24日に開院いたしました。「女性とこどもにやさしい病院」として、周産期医療や小児医療の充実を図るとともに、江東区南部地域の中核的病院、二次救急医療や災害時における拠点病院としての役割を担っていきます。また、医系総合大学の附属病院として、優れた医療人を育成する場ともなります。

設備面ではガスコーチェネレーションシステムを軸に太陽光発電システム、地中熱利用、風力発電、船舶からの受電システムなどを導入しております。電力の多様化を実現し、災害時における拠点病院として想定を超える事態でも医療提供を続けられる体制を整備しています。

【設計コンセプト】「パークホスピタル」と「エコホスピタル」の実現

敷地は運河に面し、正面に歴史ある護岸の緑とウォーターフロントに臨む恵まれた環境にあります。そのため、隣接地と連続した庭園を設け、敷地全体が開かれています。駐車場はすべて地下化し、高い緑地率を確保した「パークホスピタル」と呼ばれるにふさわしい環境が整っています。

病院の表情も明るく開放的な開かれた病院とするため、低層部はできる限り外部に開いて日差しをコントロールできるよう、奥行きの深い庇と縦型のルーバーが用いられています。内部空間は木質系の仕上げとし、あたたかみある療養空間を実現しています。

また、庇やルーバーに加えバルコニー、ペアガラスによる建物への熱負荷低減、地中熱の利用や免震階を利用したクールピット、エコポイドによる空調負荷低減、太陽光発電、雨水利用など、さまざまな環境負荷低減の手法を取り入れた「エコホスピタル」が実現しました。

順天堂大学

医学部附属順天堂医院新病棟（B 棟高層棟）がオープン



新病棟（B 棟高層棟）外観

1. 安全面での先進性

平成 25 年 4 月、「高齢社会の到来を踏まえた高層建築物等における防火安全対策のあり方」に関する第 20 期火災予防審議会の答申を踏まえ、東京消防庁は指導基準となる「高層建築物における歩行困難者等にかかる避難安全対策」を策定しました。順天堂医院では、患者、外来者及び教職員の安全性を優先し、全国に先駆けてこの指導基準への適用申請を行った結果、指導基準適用の第 1 号の高層建築物となりました。

新病棟では、指導基準に基づく主な避難安全対策として、一時避難エリアや避難誘導エレベーターの設置に加え、避難流動性を高めるために自衛消防隊による避難誘導などが行われることとなっており、平成 26 年 2 月 20 日に実施された東京消防庁と本学自衛消防隊との連携訓練を通じ、新基準適用による新病棟の安全性が確認されました。



避難誘導エレベーター（手前）

順天堂大学では、医学部附属順天堂医院の新病棟（B 棟高層棟、地上 21 階、地下 3 階）が完成し、平成 26 年 3 月にフルオープンしました。

新病棟は、①「100 年建築」、②「次世代環境医療に対応したエコホスピタル」、③「最先端の ICT 技術の導入」、④「患者、スタッフに優しい癒しの空間作り」を建設の基本コンセプトとし、特に耐震・免震・制震、有事避難などに関する最新建築技術の導入はもちろんのこと、安全面や環境への配慮にも行き届いた国内外を通して最新鋭の高層建築となっています。

2. 環境面での先進性

新病棟は、日本の建築環境総合性能評価システム（CASBEE）の評価で最高位の S ランクを取得します。この CASBEE は、建築物の環境品質・性能及び建築物の環境負荷低減性の各評価項目の得点により評価を行うものです。また、国内の病院では初めてとなる米国の建築環境性能評価システム（LEED）において、ゴールドの認証を受けます。

東京女子医科大学

本部／女性生涯教育支援センター竣工



本部／女性生涯教育支援センター外観



チュートリアル室



学生自習室

平成26年3月24日に本部／女性生涯教育支援センターが竣工しました。この建物には本部事務局機能と女性生涯教育支援センターが入ります。女性生涯教育支援センターは、一貫したキャリア教育とその方法としてのラーニングコモンを達成するため、学内での学部、卒前卒後の枠を超えた協働学修環境、増加する電子教材の充実のためのインフラストラクチャー、および学修者にあわせた24時間使用可能な学修環境を整備し、女性が安全性を確保された環境で常に自学自習に取組めるよう設計されました。

女性生涯教育支援センターには以下の機能があります。
 ①多目的講義室：双方向・相互教育学修室としての役割を持ち異なる背景の学修者が、グループ、チームあるいは全体で学び、考えを交換し、問題解決と決断を学びます。
 ②チュートリアル室：少人数での討論、看護実習セミナー、少人数でのネイティブスピーカーによる語学研修、無線LANによる画像診断学、生理学e-learning実習、キャリア学習等を実施します。
 ③自習室：無線LANで配信される双方向性学習教材、学習成果自己診断システムなどが利用できる自習室では、医療英語研修のe-learning、コンピューターによるテスティング等

自己主導学習が行われます。
 ④健康保健管理センター：健康管理を自ら行なう事ができるように健康管理の講義がセンター教員によりカリキュラムに入れられています。
 ⑤医療人統合教育学習センター：本学における高度な医療技術・技能の習熟を目的とする技術習得の部門と、シミュレーション(PC)生理学実習、e-learningによるキャリア教育、復職支援のためのe-learning研修を行います。

新棟にはこの他理室、本部事務局、一般教育研究室、医学教育情報室等が入居します。

北里大学

大学病院新病院の新築・開院



大学病院外観

北里大学病院は北里大学東病院のリニューアルを含めた新病院プロジェクトが進行中です。このたび、相模原キャンパスに新病院を新築・開院しました。新病院は屋上にヘリポートを備えた14階建ての特徴的な建物で、既存の一号館（新棟）と合わせて、のべ床面積約12万平米、許可病床数1,033床、大学病院として人材育成とともに、高度先進医療の推進と地域医療への貢献を目指します。重点医療分野として、集学的がん診療センター、周産母子成育医療センター、救命救急・災害医療センターを擁し、120床を超えるICUなど重症系病床と手術室20室(DaVinci、ハイブリッド手術室)、CT6台、MRI6台、リニアック3台を備えており、今後さらにIVR、SCUなどの整備も行う予定です。また、病院の中央に入退院支援と地域医療連携を担うトータルサポートセンターを設置しています。院内には100点を超える絵画、市民ギャラリー、カフェに隣接した健康情報館（けやきサロン）などアメニティも充実しています。

今年12月には北里大学東病院から消化器内科、消化器外科、整形外科を移転させ、大学病院を特定



手術室

機能病院・教育病院としてさらに充実させる一方で、東病院は自立支援・回復支援、人としての尊厳維持を理念に、従来の精神科、神経難病の分野に加えて、回復期リハビリ、緩和ケア医療、在宅医療支援、重症心身障害児支援などポスト急性期と地域医療の橋渡しをする新しいチーム医療の実践病院として生まれ変わる予定です。また、予防医学（人間ドック）にも力を入れることになっています。

愛知医科大学

大学病院新病院（中央棟）開院



新病院（中央棟）外観

学校法人愛知医科大学は、創立40周年の記念事業として、キャンパス整備計画を平成18年から進めています。中核となる新病院は、昨年12月に竣工式を終え、本年5月9日に開院しました。

新病院（中央棟）は、基礎免震構造で地下1階・地上15階建で、延床面積が約86,000m²、病床数は800床です。地下1階に供給部門、1階から5階の低層階に、外来・中央診療・手術・管理の各部門及びICU系病床（EICU・HCU・GICU）を配置し、6階から14階は病棟階となっています。

新病院は、コンセプトとして①生活時間の最大活用、②医療の可視化、③地域との協力の3つを掲げ、患者さんや職員に優しく、安心・安全で、高機能な病院を目指しています。

手術室は、19室を備え、ハイブリッド手術室など高度医療も行うことができ、年間1万件以上の手術に対応します。ICU系病床は75床へ増加し、最先端の放射線機器も導入して、救急医療や術後医療などの充実を図っています。また、医療機関の機能分化・強化と連携が求められる中、地域医療連携ネットワークシステムを導入し、地域医療に貢献します。院内物流は、総合物流システムにより、カテゴリーを超えた物品を混載便で安全かつタイムリーに搬送します。給食は、ニュークックチル方式を採用し、HACCPによる食の安全性を重視しています。患者さんと職員の動線を分離し、関連の深い外来診療科

や中央診療部門の近隣配置などにも留意しました。外来患者さんは、患者案内システム（NAVIT）の導入により、外来エリアのどこでもお待ちいただけますようになっています。



オアシスホール（エントランス）



特別病室 A

医大協ニュース

岩手医科大学

《教授の人事》

◎教授就任

中村隆二（放射線医学講座）
佐藤洋一（統合基礎講座医学教育学講座）
以上、平成 25 年 10 月 1 日付
小山耕太郎（小児科学講座）
木村祐輔（緩和医療学科）
以上、平成 26 年 1 月 1 日付
有賀久哲（放射線腫瘍学科）
平成 26 年 2 月 1 日付
齋野朝幸（統合基礎講座解剖学講座細胞生物学分野）
平成 26 年 4 月 1 日付

◎教授退任

藤岡知昭（泌尿器科学講座）
澤井高志（統合基礎講座病理学講座先進機能病理学分野）
佐藤成大（統合基礎講座微生物学講座感染症学・免疫学分野）
遠山稿二郎（医歯薬総合研究所超微形態科学研究部門）
以上、平成 26 年 3 月 31 日付

◎名誉教授の称号授与

小川 彰（前脳神経科学講座教授、現理事長・学長）
藤岡知昭（前泌尿器科学講座教授）
佐藤成大（前統合基礎講座微生物学講座感染症学・免疫学分野）
以上、平成 26 年 4 月 1 日付

日本医科大学

《法人役員》

◎常務理事

福永慶隆（新任）

◎常任理事

黒川 顯（新任）

◎理事

坂本篤裕（新任）

以上、平成 26 年 4 月 1 日付

《人事》

◎大学院教授

岡田尚巳（分子遺伝医学）

杉原 仁（内分泌糖尿病代謝内科学）

新田 隆（心臓血管外科学）

◎教授

松本 尚（救急医学）

◎特任教授

木田厚瑞

馬場俊吉

島田 隆

有馬保生

二宮宣文

南 和文

北村 伸

ルビー・パワーカール

宗像一雄

及川眞一

◎付属病院院長

坂本篤裕（新任）

◎武藏小杉病院院長

黒川 顯（再任）

◎多摩永山病院院長

新 博次（再任）

◎千葉北総病院院長

井上哲夫（再任）

以上、平成 26 年 4 月 1 日付

◎健診医療センター長代理

石原圭一

平成 26 年 1 月 1 日付

◎呼吸ケアクリニック所長

木田厚瑞

◎成田国際空港クリニック所長

赤沼雅彦

◎国際交流センター長

新田 隆

◎知的財産推進センター長

猪口孝一

◎I C T 推進センター長

林 宏光

◎ワクチン療法研究施設長

永積 悅

以上、平成 26 年 4 月 1 日付

《定年退職》

◎大学院教授

島田 隆（分子遺伝医学）

片山泰朗（神経内科学）

川名誠司（皮膚粘膜病態学）

清水一雄（内分泌外科学）

◎大学院教授代行

及川眞一（内分泌糖尿病代謝内科学）

落 雅美（心臓血管外科学）

◎教授

田中啓治（内科学（循環器内科学））

益子邦洋（救急医学）

◎診療教授

松久威史（内科学（消化器内科学））

東邦大学医学部本館外構リニューアル・創立90周年記念モニュメント設置

東邦大学では、昨年8月より医学部（大森キャンパス）の外構整備工事を開始し、平成26年2月に完成いたしました。

医学部構内には、本学の象徴とも言える歴史ある医学部本館が立地しておりますが、門構えをはじめとする外構は老朽化だけではなく、繰り返し行われてきた建物の増改築により、建物との調和が失われつつありました。整備工事には学生の授業や生活に影響が伴うため、着手保留の状態が続いておりましたが、現在の法人執行部の決断と関係者のご理解により、無事に完成の運びとなりました。

また、本学は平成27年に創立90周年を迎え、これを記念して創立90周年記念モニュメントを医学部構内に設置しました。球体のモニュメントは本学のコミュニケーションマークなどの90個の模様が入り、本学の建学の精神である「自然・生命・人間」、そして創立90周年記念を想起させるものとなっております。夜には上品にライトアップされ、これからは大森キャンパスのランドマークとなることが期待されます。

今回の整備はキャンパスを利用する学生や教職員だけでなく、来訪される学外の方にも親しんでいただけるものとなっておりますので、大森キャンパスにお寄りの際は、是非リニューアルされた外構および記念モニュメントをご覧いただきたいと思います。



レンガ造りの門柱と塀で整備された正門



ライトアップされた大階段と
創立90周年記念モニュメント



青空が投影し光り輝く
創立90周年記念モニュメント

◎特任教授

南 和文（整形外科学）

以上、平成26年3月31日付

《称号授与》

◎名誉教授

島田 隆

片山泰朗

川名誠司

清水一雄

及川真一

落 雅美

田中啓治

益子邦洋

以上、平成26年3月31日付

東邦大学

《教授人事》

◎教授就任

関口隆三（放射線医学講座）

平成25年10月1日付

宍戸清一郎（腎臓学講座）

平成25年12月1日付

海老原覚（リハビリテーション
医学研究室）
平成 26 年 1 月 1 日付

本村 昇（外科学講座（心臓血
管外科））

平成 26 年 2 月 1 日付

中野裕康（生化学講座）

堀 裕一（眼科学講座）

松瀬厚人（内科学講座（呼吸器））

村上義孝（社会医学講座（医療
統計））

吉川 衛（耳鼻咽喉科学講座）

以上、平成 26 年 4 月 1 日付

◎教授退職

久具宏司（産婦人科学講座）

平成 25 年 12 月 31 日付

◎教授退任

大越俊夫（耳鼻咽喉科学講座）

田上 恵（麻醉科学講座）

田中政信（産婦人科学講座）

朽久保哲男（眼科学講座）

山下 茂（生化学講座）

以上、平成 26 年 3 月 31 日付

◎名誉教授称号授与

大越俊夫

朽久保哲男

山下 茂

以上、平成 26 年 4 月 1 日付

山崎 薫（茨城医療センター神
経内科教授）（再任）
以上、平成 25 年 10 月 1 日付

◎副学長

池田徳彦（呼吸器・甲状腺外科
学主任教授）（新任）

◎八王子医療センター副院長

宮岡正明（八王子医療センター
消化器内科臨床教授）（新任）

鳥羽真弓（八王子医療センター
看護部長）（新任）

◎主任教授

吉田謙一（法医学）

河地茂行（消化器外科・移植外
科）

石川 孝（乳腺科学）

松村 一（形成外科学）

以上、平成 26 年 4 月 1 日付

◎教授

久慈直昭（産科婦人科学）

勝又健次（外科学第三）

麦谷眞里（医学総合研究所）

以上、平成 26 年 1 月 1 日付

普神敬悟（化学）

大楠清文（微生物学）

阿部幸恵（大学病院シミュレー
ションセンター）

若林美宏（眼科学）

今泉 均（麻醉科学）

川内康弘（茨城医療センター皮
膚科）

石井朝夫（茨城医療センター整
形外科）

尾田高志（八王子医療センター
腎臓内科）

成瀬和子（看護学科）

小林 信（看護学科）

以上、平成 26 年 4 月 1 日付

◎臨床教授

木村之彦（大学病院健診予防医
学センター）

平成 25 年 12 月 1 日付

《退任》

◎主任教授

飯森眞喜雄（精神医学）
渡邊克益（形成外科学）
島津元秀（外科学第五）

◎教授

荒井貞夫（化学）

代田常道（大学病院健診予防医
学センター）

松本哲夫（泌尿器科学）

河野範男（大学病院乳腺科）

大石修司（八王子医療センター
呼吸器内科）

以上、平成 26 年 3 月 31 日付

東京女子医科大学

《法人役員の退任》

◎理事退任

竹宮敏子

川上順子

以上、平成 26 年 3 月 31 日付

《法人役員の就任》

◎理事就任

長柄光子

福下雄二

以上、平成 25 年 12 月 1 日付

三輪洋子

上野恵子

以上、平成 26 年 4 月 1 日付

《教授退任》

三橋紀夫（放射線腫瘍学主任教
授）

川上順子（生理学（第一）主任
教授）

内山真一郎（神経内科学主任教
授）

小野由子（画像診断・核医学科
教授）

戸塚恭一（感染症科教授）

西川俊郎（病理診断科教授）

岡野光夫（先端生命医科学研究
所教授）

喜多村陽一（消化器外科教授）

伊闌 洋（先端生命医科学研究
所教授）

東京医科大学

《法人役員の就任》

◎常務理事

高山雅臣

平成 25 年 12 月 1 日付

《就任》

◎茨城医療センター副院長

小林正貴（茨城医療センター内
科（腎臓）教授）（新任）

古川欣也（外科学第一教授）（再
任）

柳田国夫（茨城医療センター集
中治療部准教授）（再任）

所教授)
阿部廣幸(東医療センター歯科
口腔外科教授)
松田隆子(病態生理薬理学特任
教授)
以上、平成26年3月31日付
《教授就任》
近藤 乾(八千代医療センター
新生兒科教授)
平成25年10月1日付
石田英樹(泌尿器科臨床教授)
平成25年11月1日付
宮田麻理子(生理学(第一)主
任教授)
北川一夫(神經内科学主任教授)
江川裕人(消化器外科教授)
菊池 賢(感染症科教授)
伊藤 隆(東洋医学研究所教授)
正宗 賢(先端生命医科学研究
所教授)
岡野光夫(学長付特任教授)
比企直樹(消化器外科客員教授)
大橋靖雄(学長付客員教授)
以上、平成26年4月1日付

林 勝彦(昇任 / 歯科)
清川貴子(採用 / 病理学講座)
柳澤隆昭(採用 / 脳神經外科学
講座)
三崎和志(採用 / 人間科学教室)
以上、平成26年4月1日付

◎医学部内科学講座(総合内科学
部門)教授(昭和大学江東豊洲
病院勤務)
弘重壽一(就任)

◎医学部外科学講座(消化器一般
外科学部門)教授(昭和大学江
東豊洲病院勤務)
井上晴洋(就任)

◎医学部外科学講座(消化器一般
外科学部門)教授(昭和大学江
東豊洲病院勤務)
中村明央(就任)

◎医学部脳神経外科講座教授(昭
和大学江東豊洲病院勤務)
池田尚人(就任)

◎医学部小児科学講座教授(昭和
大学江東豊洲病院勤務)
水野克己(就任)

以上、平成26年3月1日付
◎医学部内科学(消化器内科学部
門)教授(昭和大学江東豊洲病
院勤務)
松川正明(就任)
平成26年3月24日付

◎医学部薬理学(臨床薬理学部門)
教授

内田直樹(就任)
◎医学部外科学講座(心臓血管外
科学部門)教授(昭和大学江東
豊洲病院勤務)
山口裕己(就任)

以上、平成26年4月1日付
◎医学部内科学講座(血液内科学
部門)教授(員外)(昭和大学
病院勤務)
中牧 剛(就任)

◎医学部放射線医学講座(放射線
治療学部門)教授(員外)(昭
和大学横浜市北部病院勤務)
馳澤憲二(就任)

以上、平成25年10月8日付
◎医学部臨床病理診断学講座教授
(員外)(昭和大学横浜市北部病
院勤務)

昭和大学

《就任関係》

◎学校法人昭和大学理事
副島和彦(再任)
上條由美(就任)
以上、平成26年4月1日付

◎昭和大学病院院長

有賀 徹(再任)

◎昭和大学病院副院长

板橋家頭夫(再任)

村上雅彦(再任)

◎昭和大学病院附属東病院院長

河村 満(再任)

◎昭和大学横浜市北部病院院長

世良田和幸(就任)

◎昭和大学横浜市北部病院副院长

成島道昭(再任)

福成信博(就任)

以上、平成26年4月1日付

◎昭和大学江東豊洲病院院長

新井一成(就任)

◎昭和大学江東豊洲病院副院长

笠間 毅(就任)

上條由美(就任)

以上、平成26年3月1日付

◎昭和大学豊洲クリニック院長

由良明彦(就任)

平成26年4月1日付

◎医学部臨床病理診断学講座教授

(昭和大学江東豊洲病院勤務)

九島巳樹(就任)

◎医学部内科学講座(リウマチ・

膠原病内科学部門)教授(昭和

大学江東豊洲病院勤務)

笠間 毅(就任)

東京慈恵会医科大学

◎理事

東條克能(就任)
平成26年4月1日付

◎教授

松浦和知(昇任 / 臨床検査医学
講座)

山根禎一(昇任 / 内科学講座(循
環器内科))

以上、平成26年1月1日付

本郷賢一(昇任 / 内科学講座(循
環器内科))

平成26年2月1日付

海渡 健(昇任 / 臨床検査医学
講座)

平成26年3月1日付

卯津羅雅彦(昇任 / 救急医学)

- 木村 聰（就任）
平成 25 年 11 月 12 日付
- ◎医学部外科学講座（消化器一般外科学部門）教授（員外）（昭和大学横浜市北部病院勤務）
石田文生（就任）
福成信博（就任）
- ◎医学部整形外科学講座教授（員外）（昭和大学横浜市北部病院勤務）
中村正則（就任）
以上、平成 25 年 12 月 10 日付
- ◎医学部放射線医学講座（放射線科学部門）教授（員外）（昭和大学藤が丘病院勤務）
橋本東児（就任）
平成 26 年 1 月 14 日付
- ◎医学部内科学講座（循環器内科学部門）教授（員外）（昭和大学江東豊洲病院勤務）
丹野 郁（就任）
- ◎医学部泌尿器科学講座教授（員外）（昭和大学江東豊洲病院勤務）
深貝隆志（就任）
- ◎医学部放射線医学講座（放射線科学部門）教授（員外）（昭和大学江東豊洲病院勤務）
長谷川真（就任）
- ◎医学部麻酔科学講座教授（員外）（昭和大学江東豊洲病院勤務）
鈴木尚志（就任）
以上、平成 26 年 3 月 1 日付
- ◎医学部小児科学講座教授（員外）（昭和大学横浜市北部病院勤務）
北澤重孝（就任）
平成 26 年 3 月 11 日付
- ◎昭和大学名誉教授
谷口重雄（授与）
光谷俊幸（授与）
熊谷一秀（授与）
以上、平成 26 年 4 月 1 日付
- 《退任関係》
- ◎医学部薬理学講座（臨床薬理学）
《人事異動》
- 部門）教授
小林真一（定年退職）
- ◎医学部耳鼻咽喉科学講座教授
洲崎春海（昭和大学病院）（定年退職）
- ◎医学部眼科学講座教授
谷口重雄（昭和大学藤が丘病院）（定年退職）
- ◎医学部臨床病理診断学講座教授
光谷俊幸（昭和大学藤が丘病院）（定年退職）
- ◎医学部形成外科学講座（形成外科学部門）教授
角谷徳芳（昭和大学藤が丘病院）（定年退職）
- ◎医学部産婦人科学講座教授
齋藤 裕（昭和大学藤が丘病院）（定年退職）
- ◎医学部精神医学講座教授
工藤行夫（昭和大学横浜市北部病院）（定年退職）
- ◎医学部外科学講座（消化器・一般外科学部門）教授
熊谷一秀（昭和大学豊洲クリニック）（定年退職）
- ◎医学部内科学講座（神経内科学部門）教授（員外）
福井俊哉（昭和大学横浜市北部病院）（定年退職）
以上、平成 26 年 3 月 31 日付
- ◎学校法人順天堂理事
代田浩之
任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
- ◎順天堂大学医学部附属順天堂医院長
代田浩之
任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
- ◎名誉教授選任
三橋直樹
- ◎特任教授選任
赤松和土
小沼富男
神山洋一郎
木所昭夫
松本俊治
三橋直樹
以上、平成 26 年 4 月 1 日付
- ◎教授就任
加藤俊介（大学院医学研究科臨床腫瘍学／医学部腫瘍内科学研究室）
平成 25 年 12 月 10 日付
角倉弘行（大学院医学研究科麻酔科学／医学部麻酔科学・ペインクリニック講座）
平成 26 年 1 月 1 日付
富田茂樹（大学院医学研究科・分子病理病態学／医学部病理・腫瘍学講座（浦安病院））
平成 26 年 2 月 1 日付
尾崎 裕（大学院医学研究科放射線診断学／医学部放射線医学教室・放射線診断学講座（練馬病院））
平成 26 年 3 月 1 日付
小池正人（大学院医学研究科神経機能構造学／医学部神経生物学・形態学講座）
谷川 武（大学院医学研究科公衆衛生学／医学部公衆衛生学講座）
以上、平成 26 年 4 月 1 日付
- ◎教授定年退職
市田隆文（大学院医学研究科消化器内科学（医学部附属静岡病院））
三橋直樹（大学院医学研究科産婦人科学（医学部附属静岡病院））
木所昭夫（大学院医学研究科臨床腫瘍学（医学部附属浦安病院））

順天堂大学

- 《主要役職者の選任》
- ◎学校法人順天堂理事
代田浩之
任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
- ◎順天堂大学医学部附属順天堂医院長
代田浩之
任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
- 《人事異動》

日本医学教育歴史館開館披露及び 順天堂創立175周年記念式典を開催

順天堂大学は、江戸後期の天保9（1838）年、学祖の佐藤泰然が江戸・薬研堀に設立したオランダ医学塾に端を発し、いまに繋がる日本最古の西洋医学塾です。

この度、順天堂創立175周年記念事業の一環として設置した「日本医学教育歴史館」の開館披露式典とあわせ4月10日（木）に天皇皇后両陛下のご親臨を仰ぎ、有山登記念館講堂において「日本医学教育歴史館開館披露及び順天堂創立175周年記念式典」を開催しました。

この「日本医学教育歴史館」は、第28回日本医学会総会における企画展として平成23年に国立科学博物館で開催された「医学教育史展～歴史でみる・日本の医師のつくり方～」の内容を保存しさらに充実させ、日本の医学教育の歴史を資料等により検証できる本邦初の展示施設となっています。

天皇皇后両陛下ご臨席のなか、式典当日はご来賓として森喜朗元内閣総理大臣・東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会长、高久史麿日本医学会会長・医学教育振興財団前理事長、河野洋平元衆議院議長・日本陸上競技連盟名誉会長、横倉義武日本医師会会长、野依良治理化学研究所理事長などにお越しいただきました。

式典終了後、天皇皇后両陛下は小川秀興理事長とともに会場を後にされ、日本医学教育歴史館をご視察されました。両陛下は酒井シヅ医史学特任教授（日本医史学会前理事長）の説明を受けながら歴史館にて解体新書など約120点におよぶ西洋医学教育の歴史を伝える展示をご覧になりました。

また、午後からは有山登記念館講堂において、理化学研究所の野依良治理事長（ノーベル化学賞受賞者）に「時代に生きる科学技術」と題してご講演いただきました。講演会終了後には引き続き祝賀会を開催し、ご出席いただいた方々には和やかに歓談していただきました。



創立175周年記念式典



日本医学教育歴史館を
ご見学される天皇皇后両陛下

院))
 神山洋一郎 (大学院医学研究科
 麻酔科学 (医学部附属浦安病
 院))
 小沼富男 (大学院医学研究科代
 謝内分泌内科学 (医学部附属
 順天堂東京江東高齢者医療セン
 ター))
 松本俊治 (大学院医学研究科人
 体病理病態学 (医学部附属練馬
 病院))
 以上、平成 26 年 3 月 31 日付

大阪医科大学

◎理事
 大槻勝紀 (重任)
 岩井 一 (就任)
 橋長 勉 (就任)
 以上、平成 26 年 4 月 1 日付
 《人事》
 ◎教授就任
 廣瀬善信 (病理学)
 平成 25 年 8 月 1 日付
 玉置淳子 (衛生学・公衆衛生学
 I・II)
 平成 25 年 9 月 1 日付
 矢野貴人 (生化学)
 平成 26 年 4 月 1 日付
 ◎教授退任
 齐田隆裕 (生理学)
 田齊孝行 (臨床検査医学)
 以上、平成 26 年 3 月 31 日付

久留米大学

《役職者の退任》
 ◎医学部看護学科長
 自見厚郎
 ◎臨床試験センター長
 佐田通夫
 ◎情報教育センター所長
 中西吉則
 以上、平成 26 年 3 月 31 日付

《役職者の就任》
 ◎皮膚細胞生物学研究所長
 橋本 隆 (再任)
 平成 26 年 1 月 1 日付
 ◎医学部看護学科長
 三橋睦子
 ◎臨床試験センター長
 志波直人
 ◎バイオ統計センター所長
 角間辰之 (再任)
 ◎高次脳疾患研究所長
 内村直尚 (再任)
 ◎認定看護師教育センター長
 三橋睦子 (再任)
 ◎がんワクチンセンター長
 伊東恭悟 (再任)
 ◎情報教育センター所長
 原田康平
 以上、平成 26 年 4 月 1 日付
 《教授の退任》
 ◎医学部医学科免疫・免疫治療學
 講座
 伊藤恭悟 (定年)
 平成 25 年 12 月 31 日付
 ◎医学部看護学科
 自見厚郎 (定年)
 ◎医学部医学科医化学講座
 野口正人 (定年)
 ◎医学部医学科内科学講座 (呼吸
 器・神経・膠原病内科部門)
 福田孝昭 (定年)
 ◎医学部医学科内科学講座 (消化
 器内科部門)
 佐田通夫 (定年)
 ◎医学部医学科内科学講座 (血液・
 腫瘍内科部門)
 岡村 孝 (定年)
 ◎医学部医学科放射線医学講座
 石橋正敏 (定年)
 ◎医学部医学科外科学講座
 白水和雄 (定年)
 ◎医学部医学科外科学講座
 木下壽文 (定年)
 ◎医学部医学科産婦人科学講座
 嘉村敏治 (定年)
 ◎医学部医学科泌尿器科学講座
 松岡 啓 (定年)
 ◎医学部医学科耳鼻咽喉科・頭頸
 部外科学講座
 中島 格 (定年)
 ◎医学部医学科小児科学講座
 伊藤雄平 (定年扱い)
 ◎先端癌治療研究センター
 野口正典
 以上、平成 26 年 3 月 31 日付
 《教授の就任》
 ◎医学部医学科内科学講座 (呼吸
 器・神経・膠原病内科部門)
 井田弘明
 ◎医学部医学科小児科学講座
 山下裕史朗
 以上、平成 25 年 10 月 1 日付
 ◎医学部医学科皮膚科学講座
 名嘉眞武国
 平成 25 年 11 月 1 日付
 ◎医学部医学科免疫・免疫治療學
 講座
 溝口充志
 平成 26 年 2 月 1 日付
 ◎バイオ統計センター
 服部 聰
 ◎医学部看護学科
 綾部光芳
 【所属換】現: 医学部医学科地
 域医療連携講座 (寄附講座)
 ◎分子生命科学研究所細胞工学研
 究部門
 斎藤成昭
 ◎医学部医学科泌尿器科学講座
 井川 掌
 ◎医学部医学科外科学講座
 赤木由人
 ◎医学部看護学科
 原 賴子
 ◎医学部附属病院放射線治療セン
 ター
 淡河悦代
 ◎医学部医学科内科学講座 (血液・

- 腫瘍内科部門)
長藤宏司
◎医学部医学科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座
梅野博仁
◎医学部看護学科
森本紀巳子
◎医学部医学科内科学講座（消化器内科部門）
鳥村拓司
【所属換】現：先端癌治療研究センター
以上、平成26年4月1日付
◎医学部医学科医化学講座
山本 健
平成26年5月1日付
《特命教授の就任》
◎学長直属
伊東恭悟
平成26年1月1日付
◎学長直属
松本博行
◎学長直属（再任）
柳川 堯
◎学長直属
野口正典
以上、平成26年4月1日付
《特定教授の就任》
◎医学部医学科糖尿病性血管合併症病態・治療学講座（寄附講座）
山岸昌一（再任）
◎医学部医学科先進漢方医学講座（寄附講座）
恵紙英昭（再任）
◎分子生命科学研究所高分子化学研究部門
三原勝芳（再任）
以上、平成26年4月1日付

北里大学

- 《人事異動》
◎教授昇任
岡 秀宏（脳神経外科学（北里

北里大学医学部 新世紀医療開発センター発足

新世紀医療開発センターは、先端医療領域と横断型の臨床医学領域とを支援し、将来の医学教育に資することを目的として設置されました。

多様化する臨床医学においては、近年、専門を深く追究する縦型の学問体系に加え、異なる複数の専門領域を密接に連結する横型の体系が求められています。「先端医療領域開発部門」は、先端的医療に従事する教員により、また「横断的医療領域開発部門」は、既存の診療領域にとらわれない医療を実践する教員により構成されます。これら二つの部門を置くことで、教育・研究・診療の在り方などについて提言を行いつつ、臨床教育の活性化と新大学病院の診療機能の充実を図ります。医学教育へのフィードバックも期待されます。

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------|
| メディカルセンター)) | 大学メディカルセンター)) |
| 平成25年10月1日付 | 以上、平成26年4月1日付 |
| 金井昭文（新世紀医療開発センター（横断的医療領域開発部門）） | ◎教授退任 |
| 佐々木治一郎（新世紀医療開発センター（横断的医療領域開発部門）） | 内沼栄樹（形成外科・美容外科学） |
| 以上、平成26年2月1日付 | ◎教授退職 |
| 天羽康之（皮膚科学） | 埴原恒彦（解剖学） |
| 田邊 聰（新世紀医療開発センター（先端医療領域開発部門）） | ◎特任教授退職 |
| 以上、平成26年4月1日付 | 山本賢司（神奈川県寄附講座「中毒・心身総合救急医学」） |
| ◎教授採用 | 以上、平成26年3月31日付 |
| 林 俊治（微生物学） | |
| 大木幹文（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学（北里メディカルセンター）） | |
| 以上、平成26年1月1日付 | |
| 浅利 靖（救命救急医学） | |
| 平成26年2月1日付 | |
| 花輪壽彦（医学教育研究開発センター東洋医学教育研究部門） | |
| ◎他学部からの移籍・昇任 | |
| 竹内昭博（医学教育研究開発センター医療情報教育研究部門） | |
| ◎教授昇任・出向 | |
| 上條吉人（救命救急医学（北里 | |

杏林大学

- 《人事》
◎学長
跡見 裕（再任）
◎医学部長／医学研究科長
渡邊 卓（就任）
◎研究推進センター長
小林富美恵（就任）
◎教授
有村義宏（内科学）（就任）
栗崎 健（生物学）（就任）
秋元義弘（解剖学）（就任）
今泉美佳（生化学）（就任）

岡本 晋 (総合医療学) (就任)
 要 伸也 (内科学) (就任)
 後藤田貴也 (生化学) (就任)
 谷口善仁 (衛生学公衆衛生学)
 (就任)
 平野浩一 (外科学) (就任)
 渡邊衡一郎 (精神神経科学) (就
 任)
 以上、平成 26 年 4 月 1 日付

◎医学部長／医学研究科長
 後藤 元 (退任)

◎教授
 大野秀樹 (衛生学公衆衛生学)
 (退任)
 呉屋朝幸 (外科学) (退任)
 松田宗男 (生物学) (退任)
 山田 明 (内科学) (退任)
 以上、平成 26 年 3 月 31 日付

◎名誉教授
 大野秀樹
 後藤 元
 呉屋朝幸
 以上、平成 26 年 4 月 1 日付

川崎医科大学

《理事の異動》
 ◎就任
 石川 紘 (理事) (新任)
 平成 26 年 1 月 17 日付

《教授の異動》
 ◎教授就任
 萩野隆光 (救急医学)
 平成 26 年 1 月 1 日付
 金藤秀明 (糖尿病・代謝・内分
 泌内科学)
 平成 26 年 2 月 1 日付
 紅林淳一 (乳腺甲状腺外科学)
 平成 26 年 4 月 1 日付

◎教授退任
 鈴木幸一郎 (救急医学)
 吉田 清 (循環器内科学)
 以上、平成 26 年 3 月 31 日付

聖マリアンナ医科大学

《法人役員就任》
 ◎理事長
 明石勝也 (再任)
 ◎常勤理事
 三宅良彦 (再任)
 加藤智啓 (新任)
 尾崎承一 (新任)
 本田伸夫 (再任)
 中林勝男 (再任)
 小宮 清 (再任)
 ◎理事
 大久保吉修 (再任)
 深瀬幹男 (再任)
 ◎監事
 大石忠生 (再任)
 清水 至 (新任)
 ◎特別顧問
 長谷川和夫 (再任)
 ◎顧問
 田所 衛 (新任)
 中田幸之介 (新任)
 以上、平成 26 年 4 月 1 日付

《定年》
 ◎教授
 幕内晴朗 (外科学 (心臓血管外
 科))
 ◎診療教授
 舟木成樹 (外科学 (心臓血管外
 科))
 以上、平成 26 年 3 月 31 日付

《退任》
 ◎教授
 吉尾博之 (小児科学 (新生児))
 箕輪良行 (救急医学)
 ◎特任教授
 福田 譲 (外科学 (乳腺・内分
 泌外科))
 石塚文平 (高度生殖医療技術開
 発寄附講座)
 以上、平成 26 年 3 月 31 日付

《就任》

◎教授
 宮入 剛 (外科学 (心臓血管外
 科))
 平成 26 年 4 月 1 日付

◎病院教授
 生駒雅昭 (小児科学 (小児科) (川
 崎市立多摩病院))
 平成 26 年 1 月 1 日付

方波見卓行 (内科学 (代謝・内
 分泌内科) (横浜市西部病院))
 平成 26 年 3 月 1 日付

◎特任教授
 小宮山純 (内科学 (総合診療内
 科))
 井上 肇 (幹細胞再生医学寄附
 講座)
 以上、平成 26 年 4 月 1 日付

帝京大学

◎教授
 幸山 正 (医学部附属溝口病
 院第四内科学講座)
 平成 25 年 12 月 1 日付

◎名誉教授
 福里利夫
 中込忠好
 尾野精一

◎大学院研究科長
 平林慎一 (医学部形成口腔顎
 顔面外科学講座)

◎教務部長
 中木敏夫 (医学部薬理学講座)

◎学生部長
 斧 康雄 (医学部微生物学講座)

◎病院長
 藤森 新 (医学部内科学講座)

◎主任教授
 松野 彰 (医学部脳神経外科学
 講座)

◎教授
 豊根知明 (医学部附属溝口病院
 整形外科学)

安田一朗（医学部附属溝口病院
消化器内科学）
道田知樹（ちば総合医療センター第
三内科学講座）
栗原 正（ちば総合医療センター神
経内科学）
保谷克巳（ちば総合医療センター脳
神経外科学）
以上、平成26年4月1日付

兵庫医科大学

《理事・教授等の異動》

◎副理事長
太城力良（就任）
◎理事
太城力良（就任）
木曾賢造（就任）
以上、平成26年4月1日付
太城力良（辞任）
西岡 清（辞任）
以上、平成26年3月31日付
◎教授
池内浩基（就任：炎症性腸疾患
学講座外科部門）
平成25年12月1日付
善本知広（就任：免疫学・医動
物理学）
平成26年2月1日付
竹島泰弘（就任：小児科学）
平成26年4月1日付
村川和重（退任：疼痛制御科学）
大柳光正（退任：内科学冠疾患
科）
立花久大（退任：内科学総合診
療科）
谷澤隆邦（退任：小児科学）
以上、平成26年3月31日付

《主な人事異動》

◎副学長
中野孝司（就任）
平成26年4月1日付

愛知医科大学

《人事異動》

◎理事
石川直久（退任）
佐賀信介（辞任）
八島妙子（辞任）
以上、平成26年3月31日付
岡田尚志郎（就任）
衣斐 達（就任）
以上、平成26年4月1日付
◎教授

武内恒成（採用／生物学）
高村祥子（採用／感染・免疫学
講座）
石橋宏之（昇任／外科学講座（血
管外科））
以上、平成26年1月1日付
増渕 悟（採用／生理学講座）
奥村彰久（採用／小児科学講座）
以上、平成26年2月1日付
高見昭良（採用／内科学講座（血
液内科））
佐野 力（採用／外科学講座（消
化器外科））
以上、平成26年3月1日付
二村真秀（退職／生殖・周産期
母子医療センター）

◎教授（特任）
吉田友昭（退職／感染・免疫学
講座）
三輪啓志（退職／内科学講座（血
液内科））
鈴木 滋（退職／精神科学講座）
以上、平成26年3月31日付

自治医科大学

《役員の人事》

◎理事
谷本正憲（退任）
市村恵一（退任）
以上、平成26年2月18日付

上田清司（就任）
平成26年2月19日付

《大学の人事》

◎副学長
市村恵一（退任）
平成26年3月31日付
簗田清次（就任）
平成26年4月1日付
◎事務局長
三宅義彦（退任）
平成26年3月31日付
山崎一樹（就任）
平成26年4月1日付
◎附属病院副病院長
渡辺英寿（就任）
平成26年1月1日付
佐田尚宏（就任）
竹内 譲（就任）
以上、平成26年4月1日付

金沢医科大学

《法人役員》

◎理事長
竹越 襄（再任）
任期：平成26年4月1日～平
成29年3月31日
◎副理事長
高島茂樹（再任）
中農理博（新任）
以上、任期：平成26年4月1
日～平成29年3月31日
◎常務理事
木村晴夫（新任）
任期：平成26年4月1日～平
成29年3月31日
◎理事
勝田省吾（学長）
松本忠美（病院長）
斎藤人志（金沢医科大学氷見市
民病院長）
以上、学長、病院長のそれぞれ
の任期による

飯塚秀明（再任）	堀 有行（医学教育学教授）（再任）	竹上 勉（総合医学研究所生命科学研究領域）（定年退職）
伊藤 順（再任）	大森政幸（医療技術部副部長）（再任）	平成 26 年 3 月 31 日付
大島譲二（再任）	大野木辰也（事務局次長）（再任）	《訃報》
大野木辰也（再任）	堤 幹宏（肝胆膵内科特任教授）（新任）	松井 忍名誉教授は、平成 25 年 10 月 5 日に逝去されました。 享年 67。
角田弘一（再任）	以上、任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日	《金沢医科大学氷見市民病院》
川上重彦（再任）	◎一般教育機構長	◎病院長
神田享勉（再任）	勝田省吾（学長）（再任）	斎藤人志（一般・消化器外科臨床教授）（再任）
久藤豊治（再任）	任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日	任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
坂本 滋（再任）	《教授》	◎副院長
梅 博久（再任）	◎講座主任	小島ひとみ（看護部長）（再任）
飛田秀一（再任）	宮澤克人（泌尿器科学）（就任）	小平俊行（氷見市民病院事務部長）（再任）
宮村栄一（再任）	和藤幸弘（救急医学）（就任）	以上、任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日
吉田勝明（再任）	以上、平成 25 年 11 月 1 日付	坂本 滋（胸部心臓血管外科特任教授）（新任）
以上、任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日	中川秀昭（公衆衛生学）（定年退職）	任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
山下公一（退任）	梅原久範（血液免疫内科学）（退職）	◎臨床教授
平成 26 年 3 月 31 日付	以上、平成 26 年 3 月 31 日付	高田 久（脳神経外科）（就任）
◎監事	◎特任教授	平成 25 年 10 月 1 日付
大田 修（再任）	篠川寿之（産科婦人科学）（就任）	村上 望（一般・消化器外科）（新任）
米沢 寛（再任）	平成 25 年 10 月 1 日付	平成 26 年 4 月 1 日付
以上、任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日	東 伸明（解剖学 I）（就任）	◎副学長
《役職教員》	平成 26 年 1 月 1 日付	福田 健（再任）
◎病院長	高林晴夫（F D D—M B センター）（就任）	野原 裕（新任）
松本忠美（整形外科学教授）（新任）	平成 26 年 3 月 15 日付	以上、任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日（1 年）
任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日	倉田康孝（生理学 II）（就任）	◎大学病院長
◎副院長	平成 26 年 4 月 1 日付	平石秀幸（新任）
小坂健夫（一般・消化器外科学教授）（再任）	◎臨床教授	任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日（3 年）
森本茂人（高齢医学教授）（再任）	古田壽一（健康管理センター）（新任）	◎越谷病院長
四方裕夫（心臓血管外科学臨床教授）（再任）	兼氏 歩（整形外科学）（就任）	
古家大祐（糖尿病・内分泌内科学教授）（再任）	以上、平成 26 年 4 月 1 日付	
北山道彦（循環器内科学臨床教授）（新任）	《総合医学研究所》	
才田悦子（看護部長）（新任）	◎教授	
山下和夫（病院事務部事務長）（新任）	石垣靖人（総合医学研究所生命科学研究領域）（就任）	
以上、任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日	平成 26 年 4 月 1 日付	
◎病院長補佐		

獨協医科大学

《役職者の就任》

◎副学長

福田 健（再任）
野原 裕（新任）
以上、任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日（1 年）

◎大学病院長

平石秀幸（新任）
任期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日（3 年）

◎越谷病院長

東海大学医学部付属病院 ドクターへリ格納庫竣工

東海大学医学部付属病院（神奈川県伊勢原市）が位置する神奈川県は、全国で最も早くドクターへリ事業が開始されました。当院では、県内における三次救急医療の充実に向け、2年間の試行的事業を経て、平成14年7月から本格的に運航を開始しています。

この度、「平成25年度神奈川県地域医療再生計画事業」として、病院敷地内の地上ヘリポートに隣接して格納庫を建設、平成26年3月18日竣工式を執り行いました。これまでドクターへリは、台風などの悪天候時には東京ヘリポート（東京都江東区）まで退避しなければなりませんでした。この格納庫の完成により、救急医療において、常時、迅速な対応ができる期待しています。

当院のドクターへリは、神奈川県全域と山梨県の一部を主な運航地域としており、年間出動件数は約300件です。ドクターへリは、救急医療に必要な機器を装備し、救急医療専門の医師と看護師が搭乗して出動します。これにより医師が傷病者にいち早く接触し、救急隊が行えない治療を早期に実施することによる救命率の向上を最大の目的としています。また、災害時には、災害派遣医療チーム（DMA T）を被災地へ運ぶことが許可されています。迅速な治療の開始、搬送時間の短縮により、高度な救急医療体制の充実に貢献できるよう、さらなる努力をしてまいります。



ドクターへリ格納庫外観



ドクターへリ機体（川崎重工業（株）製 BK117C2）

林 雅敏（再任）
◎日光医療センター病院長
中元隆明（再任）
◎看護専門学校長
平田幸一（再任）
以上、任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日（2年）
◎事務局長
大塚 寛（新任）

平成26年4月1日付
《教授の就任》
河本俊介（脳神経外科学）
種市 洋（整形外科学）
川又 均（口腔外科学）
田口 功（越谷病院循環器内科）
松原知代（越谷病院小児科）
坂本秀一（越谷病院産科婦人科）
町田繁樹（越谷病院眼科）

宋 成浩（越谷病院泌尿器科）
小川利久（越谷病院乳腺センター）
山口岳彦（越谷病院病理部）
安 隆則（日光医療センター心臓・血管内科）
以上、平成26年4月1日付

近畿大学

《採用》

◎教授

岡田 齊 (医学部生化学教室)
柿木良介 (医学部整形外科学教室)
以上、平成 26 年 4 月 1 日付

《昇格》

◎教授

吉村一宏 (医学部泌尿器科学教室)
平成 26 年 4 月 1 日付

《退職》

◎教授

宗像 浩 (医学部生化学教室)
井上芳樹 (医学部奈良病院産婦人科)
以上、平成 26 年 3 月 31 日付

東海大学

《役職者就任》

◎理事、伊勢原校舎・付属病院本部
部長、医学部付属東京病院総病院長、医学部付属八王子病院総病院長
幕内博康

◎伊勢原校舎・付属病院本部副本部
長 (統括・教育研究担当)、
医学部長
今井 裕

◎伊勢原校舎・付属病院本部副本部
長 (病院担当)、医学部付属病院長
猪口貞樹

◎伊勢原校舎・付属病院本部副本部
長 (経営企画・事務担当)、
伊勢原事務部長、付属病院事務
部長、伊勢原経営企画室長
廣瀬利美雄

◎大学院医学研究科長
小林広幸 (新任)

◎医学部副学部長
高木敦司

坂部 貢
◎医学部付属病院副院長

鈴木康夫
安田聖栄
飯田政弘
◎医学部付属東京病院長
松嶋成志 (新任)

◎医学部付属東京病院副院長

西崎泰弘
◎医学部付属大磯病院長

吉井文均
◎医学部付属大磯病院副院長

宮北英司
島田英雄
◎医学部付属八王子病院長

渡辺勲史 (新任)

◎医学部付属八王子病院副院長

山田俊介
小林義典
金渕一雄 (新任)
《教授就任》

橋本 順 (専門診療学系 (画像
診断学))
坂巻文雄 (専門診療学系 (呼吸
器内科学))
横山健次 (内科学系 (血液・腫
瘍内科学))

山本賢司 (専門診療学系 (精神
科学))
以上、平成 26 年 4 月 1 日付

鳥生 隆 (再任)
東 敏昭 (新任)

平松憲二郎 (再任)

柳原延章 (新任)

横倉義武 (再任)

和田 裕 (再任)

◎監事

小野山眞治 (再任)

松崎正彦 (再任)

以上、平成 26 年 4 月 1 日付

《人事》

◎学長

東 敏昭 (新任)

◎副学長・病院長

佐多竹良 (新任)

◎副学長

柳原延章 (新任)

◎医学部長

川本俊弘 (新任)

◎大学院医学研究科長

井上真澄 (新任)

◎事務局長

畠間俊宏 (新任)

以上、平成 26 年 4 月 1 日付

産業医科大学

《役員就任》

◎理事長

森山 寛 (新任)

◎理事

佐多竹良 (新任)

清水英佑 (再任)

新家莊平 (再任)

武谷雄二 (再任)

田中健藏 (再任)

利島康司 (再任)

協会及び関係団体の動き

I. 医学部新設問題に関する本協会の対応について

■平成26年1月27日（月）

文部科学省は「平成26年度医学部入学定員の増員について」を公表した。

この公表を受け、本協会は医学部入学定員増の推移をとりまとめた。

その結果、国公私立大学（防衛医科大学校を含む）における医学部入学定員は9,154名（平成26年度）となり、平成25年度と比較して28名の増となった。

医学部入学定員の推移を見ると、平成12年度から平成19年度までは医学部入学定員が国公私立大学合せて7,625名であったが、地域における医師不足並びに診療科の偏在、病院勤務医の負担軽減等々の問題が起きてきたことに対応して、「緊急医師確保対策（平成19年5月31日）」に基づく医学部入学定員増並びに「経済財政改革の基本方針2008」（閣議決定：平成20年6月27日）により定員増の施策がとられた。

これに伴い、国公私立大学（防衛医科大学校を含む80大学）を問わず定員増に応じ、平成12年度から平成19年度までの定員7,625名と比較して1,529名の増員（防衛医科大学校含む）となっており、1大学の定員を100名とすると15大学を新設したことに匹敵する。

■平成26年2月12日（水）

政府は「東北地方における医学部新設に関する質問主意書と答弁書」を公表した。

第186回通常国会において、階猛衆議院議員（民主党岩手1区選出）より、東北地方における医学部新設に関する質問が行われた。

主な内容は下記のとおり。

1. 国家戦略特区で進める規制緩和として医学部新設が議論されたにも関わらず、国家戦略特区法案に医学部新設が盛り込まれなかった理由は何か。

2. 「東北地方における医学部設置認可に関する基本方針について」に示されている引き抜き等で地域医療に支障を来さない方策の具体的な内容について
3. 医学部を新設するのではなく、既存の医学部の定員増や都市部からの医師の誘導などで偏在を和らげることで対応できないか。

政府の質問に対する答弁は下記のとおり。

1. 国家戦略特区における医学部新設については、「医学部の新設に関する検討」として盛り込んでいる。
2. 文部科学省は人材が不足している地域や診療科の医師の採用には十分配慮すること等の取組みを求め、徹底されることを前提として設置の認可を行いたい。
3. 東北地方における医学部の新設については、東北地方の1校に限定して、一定の条件を満たす場合に認可を行うことを可能とする方針を示したものである。

■平成26年3月28日（金）

政府は「国家戦略特別区域諮問会議」を開催した。政府は、国家戦略特区における規制改革事項等の検討方針（平成25年10月18日：日本経済再生本部決定）において「医学部の新設については、高齢化社会に対応した社会保障制度改革や全国的な影響等を勘案しつつ、国家戦略特区の趣旨を踏まえ、関係省庁と連携の上、検討する。」としたことに基づき、「医学部の新設に関する検討」の今後の方向性を示した。

1. 東北地方における医学部の新設との関係
 - ・国家戦略特区における医学部の新設と東北地方における医学部の新設は、それぞれ目的の異なるものであるが、同時に進めた場合には、地域医療や、東北地方の医学部の新設に必要となる教員・医師の確保に、影響が及ぶ可能性がある。
 - ・このため、国家戦略特区における医学部の新設については、東北地方における医学部の新設の動向に配慮し、検討を行う。
2. 国家戦略特区の趣旨と求められる医学部像
 - ・一般の臨床医の養成・確保を主たる目的とする既存の医学部等とは次元の異なる、例えば、以下の

ような点に際立った特徴を有する大学とすることが必要。（例：医療分野の研究者養成、海外（新興諸国等）で活躍する医師の養成）

3. 社会保障制度への影響

・上記のようなものであれば、既存の医学部等とは次元の異なる革新的な取組となるが、養成された医師が、当初の目的に反して一般の臨床医として勤務するようであれば、長期間にわたり社会保障制度に影響を及ぼす可能性もあり、その場合には、医師需給を踏まえた全体の医学部定員の中で調整することが必要。こうしたことを踏まえ、仮に医学部を新設するとしても 1 校とし、十分な検証が必要。

4. 今後の検討事項

・上記の人材養成機関としての目的・役割、教育・研究の内容、体制等の在り方、大学としての自律的な運営が可能かどうか等の実現可能性について、地域医療への影響等にも配慮しつつ、関係者の意見も踏まえ、引き続き検討を行う。

■平成 26 年 4 月 8 日（火）

全国医学部長病院長会議と日本私立医科大学協会は、政府「国家戦略特別区域諮問会議」が成田市を特区の「東京圏」の一部として指定し、国際的医療人材等の養成として医学部新設に関する検討が具体化してきている状況に対して、合同で緊急記者会見を行った。



全国医学部長病院長会議と日本私立医科大学協会の合同緊急記者会見の様子

声明：「国家戦略特区での医学部新設に反対する。」
(全国医学部長病院長会議、国立大学医学部長会議、
国立大学附属病院長会議、日本私立医科大学協会)

平成 26 年 3 月 28 日の国家戦略特別区域諮問会議において、医学部新設を含めた新規事業創出の検討を進めることができたことが決まった、との報道があった。医学

部新設を進めることの決定が事実とすれば、大変遺憾なことであり、日本の医療・医学教育の将来に重大な禍根を残す結果となることが強く懸念される。

全国医学部長病院長会議は、昨年 9 月 30 日に「國家戦略特区での医学部新設に反対する」声明を発表したが、表記 4 団体（全国医学部長病院長会議、国立大学医学部長会議、国立大学附属病院長会議、日本私立医科大学協会）は、その総意として国家戦略特区における医学部新設に反対するものである。

上記の諮問会議で提示された「国家戦略特区の規制の特例措置に関する検討状況」に示された「『医学部新設に関する検討』の今後の方向性」によると、下記の 3 項目に関して検討事項が示され、「地域医療への影響等にも配慮しつつ、関係者の意見も踏まえ、引き続き検討を行う」とされている。

1. 東北地方における医学部の新設との関係
2. 国家戦略特区の趣旨と求められる医学部像
3. 社会保障制度への影響

これら 3 項目は、以下に述べるように、いずれも、わが国の医療・医学教育の将来に対して重大な負の影響を与える内容を含んでいる。

【主な内容（概要）】

1. 「東北地方における医学部の新設との関係」について

これまで繰り返し指摘されているように、平成 20 年から開始された医学部の定員増（平成 19 年比、1,529 人増）によって既に 15 の医学部を新設したと同じ状態になっている現在、東北地方における医学部新設は、①病院勤務医の引き抜きにより地域医療の連鎖的崩壊を誘発すること、②過剰な医師の養成は医師の粗製濫造につながり、結果として国民に提供する医療水準の低下をもたらす懸念のあること、③たとえ私立であっても多額な国費が投入される医学部を新設しても、早晚、医師過剰となり、定員削減に方向転換する必要性が明白であること、等の理由から、百害あって一利なし、と考えられる。

表記 4 団体は、その総意として日本の将来の医師養成および地域医療を守る立場から、国家戦略特区における医学部新設について断固反対するものである。

2. 「国家戦略特区の趣旨と求められる医学部像」について

国家戦略特区の趣旨から新設される医学部は、既存の医学部とは次元の異なる、際立った特徴を有する必要があるとされ、例として、「医療分野の研究者養成」、「海外（新興諸国等）で活躍する医師の養成」の 2 つの類型が示されている。この 2 つの例にはそ

れぞれ多くの問題点がある。

(1) 医療分野の研究者養成について

- ①世界トップレベルの研究者になるよう養成するには、優れた教育スタッフを多数集める必要がある。国内の大学・研究機関からも教員を採用することは明らかである。高い研究能力と教育能力を持った教員を引き抜くことは、国内の大学医学部にとって大きな痛手となることは避けられない。
- ②日本の医師免許を取得することとなれば、CBTとOSCEからなる共用試験および医師国家試験に合格することが必要であり、臨床医学の教育は必須である。臨床教育を担当できる教員が不可欠であり、このために病院勤務医を医療機関から引き抜くようなことがおこれば、連鎖的な地域医療崩壊を招くことは必至である。
- ③既存の医学部・医科大学では既に研究医枠の設置、MD-PhDコースによる学部・大学院の一貫コースによる教育などを通じて、世界トップレベルの研究医の養成に取り組んでいるところである。優れた研究医の養成に真摯に取り組んでいる教育現場に混乱をもたらすとともに、関係者の努力を無視し、在籍学生のモティベーションを落とすものである。
- ④世界トップレベルの研究者を養成するためには、既存の医学部・医科大学の中から、実績があり、人材を含めた教育資源を現有している大学を選定し、相応の予算を投入し、教育体制の整備・充実を図るべきである。
- ⑤本来、世界トップレベルの研究者養成は、医学部というよりむしろ大学院の果たすべき役割であり、既存の医学系大学院では、関連分野の大学院と連携して、先端医学の研究開発および人材育成に取り組んでいるところである。既存の大学院に人的、経済的資源を集中すべきである。

(2) 海外(新興諸国等)で活躍する医師の養成について

新興諸国における医療の背景やニーズは異なる。求められているのは高度医療ではなく、一般医療であり、そのための支援は、日本の国際協力の枠組みの中で果たしていくべきものである。

3. 「社会保障制度への影響」について

「『医学部新設に関する検討』の今後の方向性」に示されているように、「養成された医師が、当初の目的に反して一般臨床医として勤務するようであれば、長期間にわたり社会保障制度に影響を及ぼすことになるのは、明白である。にもかかわらず、養成された医師が一般臨床医とならない方策が何ら示されていない。

■平成26年4月10日(木)

本協会は、自由民主党「大学病院を支援する議員連盟」河村建夫会長(衆議院議員)、遠藤利明衆議院議員、丸川珠代参議院議員、古川俊治参議院議員に声明文を提出した。

■平成26年4月10日(木)

日本医師会は、定例記者会見を行い、国家戦略特区における医学部新設について改めて反対を表明した。

■平成26年4月18日(金)

本協会は、公明党文部科学部会山本香苗会長(参議院議員)、同党社会保障制度調査会舛屋敬悟会長(衆議院議員)に声明文を提出した。



左) 別所正美全国医学部長病院長会議会長、中央) 寺野彰本協会会长



左) 山本香苗参議院議員、右) 舛屋敬悟衆議院議員

■平成26年4月18日(金)

新藤義孝総務大臣・内閣府特命担当大臣(国家戦略特別区域担当)に連絡をとり、政策秘書官に声明文を提出し、説明を行った。

■平成26年4月24日(木)

本協会は、「医学部新設対策に関するワーキンググループ」を設置した。

被災地への医師等派遣状況（国公立私立大学別）

平成26年2月28日現在

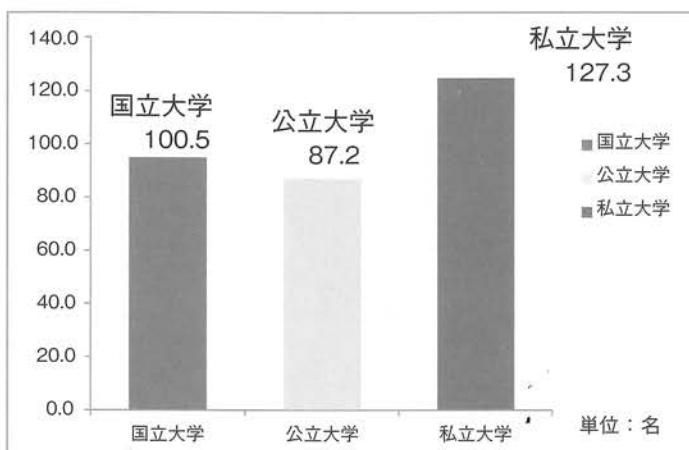
表1：DMAT含む医師等派遣状況

	大学数	病院数	チーム数	派遣人数	派遣延べ人数
国立大学	41大学	44病院	1,748チーム	4,121名	19,794名
公立大学	7大学	8病院	253チーム	611名	3,299名
私立大学	29大学	67病院	1,712チーム	3,694名	14,973名
					38,066名

表2：1大学当たりの医師等派遣人数（単位：名）

国立大学	100.5
公立大学	87.2
私立大学	127.3

※国公立大学の派遣延べ人数については、文部科学省医学教育課から提供された資料より、下記【派遣延べ人数のカウント方法】に基づいて本協会において算出した。



【派遣人数のカウント方法】
医師5名、看護師1名、臨床心理士1名、事務1名のチーム構成で支援を行った場合、計8名を派遣人数としてカウントした。

【派遣延べ人数のカウント方法】
医師5名、看護師1名、臨床心理士1名、事務1名が4月23日から26日（4日間）まで支援を行った場合、4日間×計8名=32名を派遣延べ人数としてカウントした。

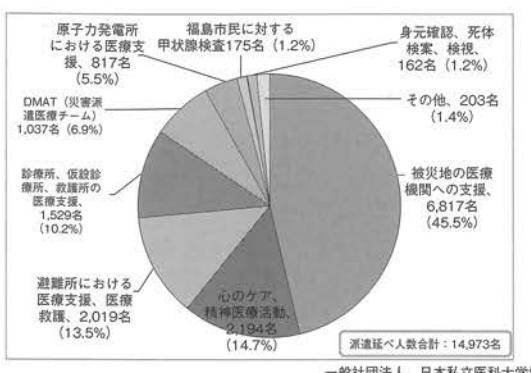
一般社団法人 日本私立医科大学協会

私立医科大学における被災地への医師等派遣状況【目的別分類】（平成26年2月28日現在） 〔私立医科大学附属病院（67病院（本院29病院、分院38病院）による対応）〕

私立医科大学附属病院（67病院（本院29病院、分院38病院））は、平成23年3月11日の東日本大震災発生以降、現在に至るまで被災地医療支援を行っており、今後も被災地医療支援に取組んでいく。（平成26年2月28日現在、1,712チーム、派遣延べ人数14,973名）

No	目的	派遣延べ人数（名）
1	被災地の医療機関への支援	6,817 45.5%
2	心のケア、精神医療活動	2,194 14.7%
3	避難所における医療支援、医療救護	2,019 13.5%
4	診療所、仮設診療所、救護所の医療支援	1,529 10.2%
5	DMAT（災害派遣医療チーム）	1,037 6.9%
6	原子力発電所における医療支援	817 5.5%
7	福島県民に対する甲状腺検査	175 1.2%
8	身元確認、死体検索、検視	162 1.1%
9	その他	203 1.4%
	合 計	14,973 100.0%

「8. その他」には、被災3県以外の医療活動、避難所における感染予防指導、SCU（広域搬送拠点臨時医療施設）本部への派遣、薬剤業務支援活動、災害支援ナース、在宅被災者の往診、仮設住宅の巡回、被災地ニースの調査・訪問、現状観察等を含む。



一般社団法人 日本私立医科大学協会

被災地への医師等派遣状況



私立医科大学附属病院の被災地への医師等派遣状況（岩手県）

【平成26年2月28日現在】

※ 特定の市町村ではなく

岩手県全域に8大学 99名

(本院8病院、分院1病院)

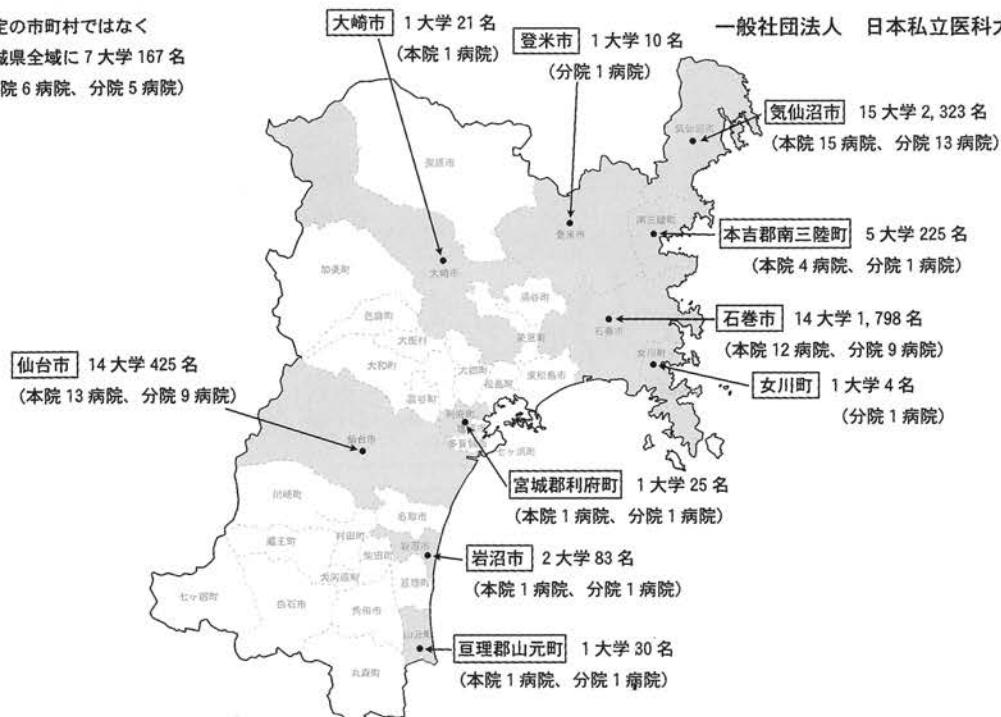
一般社団法人 日本私立医科大学協会

私立医科大学附属病院の被災地への医師等派遣状況（宮城県）

【平成 26 年 2 月 28 日現在】

※ 特定の市町村ではなく
宮城県全域に 7 大学 167 名
(本院 6 病院、分院 5 病院)

一般社団法人 日本私立医科大学協会



私立医科大学附属病院の被災地への医師等派遣状況（福島県）

【平成 26 年 2 月 28 日現在】

※ 特定の市町村ではなく

福島県全域に 6 大学 135 名
(本院 6 病院、分院 4 病院)

一般社団法人 日本私立医科大学協会

二本松市 2 大学 6 名
(本院 1 病院、分院 1 病院)

伊達市 2 大学 2 名 (本院 2 病院)

会津若松市 2 大学 32 名
(本院 2 病院)

相馬郡新地町 2 大学 122 名
(本院 1 病院、分院 1 病院)

郡山市 3 大学 257 名
(本院 3 病院、分院 2 病院)

相馬市 9 大学 265 名
(本院 8 病院、分院 1 病院)

西白河郡矢吹町 1 大学 2 名
(本院 1 病院)

南相馬市 14 大学 397 名
(本院 10 病院、分院 4 病院)

西白河郡西郷村 1 大学 24 名
(本院 1 病院)

双葉郡浪江町 1 大学 1 名 (分院 1 病院)

白河市 2 大学 3 名
(本院 2 病院)

伊達郡川俣町 2 大学 5 名 (本院 2 病院)

須賀川市 2 大学 3 名
(本院 2 病院)

双葉郡大熊町 8 大学 304 名
(本院 8 病院、分院 3 病院)

いわき市 17 大学 693 名
(本院 14 病院、分院 9 病院)

双葉郡楢葉町 2 大学 314 名
(本院 2 病院)

石川郡平田村 1 大学 14 名
(本院 1 病院)

石川郡川内村 1 大学 29 名
(本院 1 病院)

計 6 大学 135 名
(本院 6 病院、分院 4 病院)

いわき市 17 大学 693 名
(本院 14 病院、分院 9 病院)

地球の健康とすべての人々の
健康で豊かな生活に貢献したい。
それが私たちスズケンの
壮大なテーマです。



Design
Your
Smile
健康創造の
スズケングループ



alfresa

すべての人に、いきいきとした生活を
創造しあ届けします。

アルフレッサ株式会社

〒101-8512 東京都千代田区神田美士代町7番地 住友不動産神田ビル13F・14F TEL.03-3292-3331(代)

平成26年度私立医科大学合同入試説明会・相談会の実施について

「私立医科大学合同入試説明会・相談会」では、ローテーション方式による各大学の説明並びにブースを設けての個別相談形式により、各大学の入試担当者から直接、受験生や保護者の方々に私立医科大学の特色や入試制度などをお伝えしております。

今年度は下記のとおり、4回開催いたします。

詳細は、私立医科大学協会ホームページ【<http://www.idaikyo.or.jp/>】にて公表いたします。

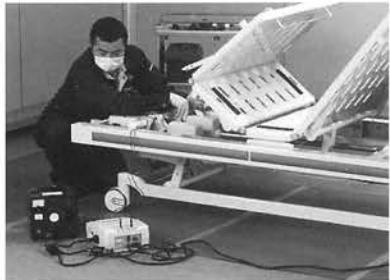
《開催スケジュール》

- | | |
|----------|---------------|
| ◇ 日本医科大学 | 平成26年8月9日(土) |
| ◇ 愛知医科大学 | 平成26年8月29日(金) |
| ◇ 近畿大学 | 平成26年8月30日(土) |
| ◇ 自治医科大学 | 平成26年9月14日(日) |

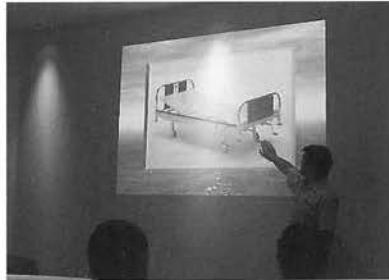
安全・快適な療養環境づくりのお手伝い。



■ベッド調査



■修理・点検・清掃



■報告・提案

保守・点検・修理などを中心とした多様なサービスを通じて、医療・介護施設さまのニーズにお応えします。

パラテクノ株式会社

本 社 〒273-0024 千葉県船橋市海神町南 1-1648-7 ☎ 047(431)0552(代)
サービス拠点 札幌・仙台・さいたま・船橋・横浜・名古屋・大阪・広島・高松・福岡

全ては健康を願う人々のために



わたしたちは社会・顧客と共生し、
独創的なサービスの提供を通じて
新しい価値を共創し、世界の人々の
医療と健康に貢献します。



共創未来グループ
東邦薬品株式会社

〒155-8655
東京都世田谷区代沢 5-2-1
TEL: 03-3419-7811
<http://www.tohoyk.co.jp/>

広く、そして深く…。
アウトソーシングの専門企業として
レベルの高い、新しいサービスを追及しています。

中材業務・看護補助業務・手術部環境保全業務／
人材派遣・病院清掃／その他

株式会社 日経サービス



本 社 〒542-0081 大阪市中央区南船場 1 丁目 17 番 10 号 南船場 NS ビル
TEL: 06-6268-6788 (代表) FAX: 06-6268-0388

東京支店 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2 丁目 3 番 13 号 鈴木ビル
TEL: 03-5283-0061 FAX: 03-5283-0062

<http://www.nikkei-service.co.jp>



広報誌 医学振興

第78号

平成 26 年 5 月 15 日発行

発行人 寺野彰
編集 一般社団法人 日本私立医科大学協会
広報委員会
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
私学会館別館1階
TEL(03)3234-6691 FAX(03)3234-0550
印刷 今井印刷株式会社